SDGs探究プログラム名

①ロハス食育環境プログラム

北塩原村（会津地域）　Active Resorts 裏磐梯

SDGs17の目標
該当No.　1　2　3　4

【プログラムの内容】

▶タイトル＝【未来フードシナリオ　100年後のハンバーグ？】▶趣意＝【輝く未来は遺すもの】
世界人口100億人時代を見据えた「食」とその背景にある「環境問題」を身近なテーマとし、その本質を学びます。講話と対話を通じて現代の食育環境の課題に触れ、SDGsのゴール達成のための　“気づき”と“行動変容”　を促します。（フードロス問題、貧困、飢餓、昆虫食等）
本プログラムは専門的な知識を持ったロハスコンシェルジュが案内し、ロハス的な考えやライフスタイルも同時に学ぶことができます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール1（ターゲット1.1）：フードロスや環境問題等を意識し貧困についての学びを深める。
▶ゴール2（ターゲット2.1）：飢餓がもたらす問題（紛争、税金、栄養等）を学び安定した食料需給システムを考える。
▶ゴール3（ターゲット3.2）：自分たちがどのような行動をすれば、持続可能な健康と福祉が得られるかを学ぶ。
▶ゴール4（ターゲット4.2）：貧困・飢餓の人々を含め、教育や生涯学習の大切さを知り感謝する。

Active　Resorts　裏磐梯

サステナブル素材を身に着けた
ロハスコンシェルジュ

ロハス講話例1

ロハス講話例2

事前学習

▶日本のフードロスや貧困問題について調べる
▶環境に配慮をしている商品や企業を調べる
▶100年後のハンバーグの材料を友達と話し合ってみる

【施設で対応できること】
▶プログラムに関する資料を送付

現地学習

▶ロハス食育環境の動画を視聴。ロハスを学ぶ。現状の課題を知る
▶ロハスコンシェルジュによる専門講話及び対話（約40分）
▶ロハスコンシェルジュが身に着けるサステナブル素材について学ぶ
▶事後学習シートの配布

事後学習

▶事後学習シートを基にディスカッションを行う
▶ロハスなライフスタイルを持続する為に何ができるのかを考え行動に移す。またSDGsのゴール達成に向けた啓蒙及び推進活動に挑戦する

【施設で対応できること】
▶年齢に応じた、事後学習シートの配布
▶事後学習シートのフィードバック

受入人数	10名　～　300名
受入可能時期（休業日）	通年（不定休）
受入可能時間	8時　～　21時
体験時間	40分　～　60分

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回 当たり料金	＠８８０円
備考 (雨天対応等)	料金は講義費用。Active　Resorts裏磐梯・裏磐梯グランデコ東急ホテルの宿泊者のみ受講可。

▶問い合わせ
企業/施設名称：Active Resorts 裏磐梯
担当名：齋藤　雅人
TEL：0241-32-3111
営業時間：年中無休
休館日：要問合せ

SDGs探究プログラム名

②裏磐梯に学ぶ景観保持（環境保全型プログラム）

北塩原村（会津地域）　Active Resorts 裏磐梯

SDGs17の目標該当No.　11　12　15

【プログラムの内容】

▶1888年の磐梯山大爆発で発生した岩屑なだれが起こり、河川がせき止められたことで、裏磐梯には桧原湖や五色沼をはじめとする300余りの湖沼群が誕生しました。春夏秋冬それぞれに美しい景色が広がる裏磐梯は、日本を代表する自然の風景地として1950年に磐梯朝日国立公園に指定され、貴重な自然景観を保護する為に、さまざまな制限や規制が行われています。本プログラムでは、専任ガイドと特定外来生物のオオハンゴンソウの除去作業やごみを拾いなどから、環境保全について学ぶことができます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール11（ターゲット11.4）：裏磐梯エリアの取り組みから、自分達の住む地域の自然遺産保護・環境保全の意識向上を図る。
▶ゴール12（ターゲット12.8）：持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする。
▶ゴール15（ターゲット15.4）：裏磐梯の自然環境や生物に接することにより、生物多様性を含む生態系の保全について考える

Active　Resorts　裏磐梯と周辺環境

磐梯朝日国立公園五色沼 【毘沙門沼】

ホテル周辺の散歩道

景観に配慮した色を使用した看板

事前学習

▶自分の住んでいる地域の街並みを観察してみよう
他の地域との違いがあるかグループで話し合ってみよう

【施設で対応できること】
▶プログラムに関する資料を送付

現地学習

▶フィールドワークを通じて裏磐梯の景観について、自分の住んでいる地域との違いを見つけてみる。（コンビニ、ガソリンスタンド、看板の色や表示、照明など）
▶裏磐梯の景観・風景を肌で感じながら、特定外来種の除去作業やゴミ拾いを行い、環境保全の大切さを学ぶ
▶気づいた点をグループでまとめて、発表しよう

事後学習

▶自分の住んでいる地域で後世に残したい景色について、グループで話し合ってみよう
▶後世に残す為に、自分たちに何ができるか話し合いまとめてみよう

【施設で対応できること】
▶年齢に応じた、事後学習シートの配布
▶事後学習シートのフィードバック

受入人数	10名　～　50名
受入可能時期（休業日）	5月～11月（不定休）
受入可能時間	8時　～　15時
体験時間	150分（フィールドワーク90分・グループワーク60分）

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	宿泊料金に含む（宿泊者限定プログラムとなります。）
備考（雨天対応等）	フィールドワークの時間、移動手段等は、事前打ち合わせ要。Active　Resorts裏磐梯　宿泊者のみ受講可。

▶問い合わせ
企業/施設名称：Active Resorts　裏磐梯
担当名：齋藤　雅人
TEL：0241-32-3111
営業時間：年中無休
休館日：要問合せ

SDGs探究プログラム名

③あなたの赤べこはどんな色？

北塩原村（会津地域）　Active Resorts 裏磐梯

SDGs17の目標該当No.　4　5

【プログラムの内容】

▶赤べこと言えば会津の代表的な郷土玩具であり、その色は名前の通り“赤”が一般的です。しかし、赤べこはどうして赤色になったのか考えたことはありますか？本プログラムでは、赤べこのその色を含めた文化歴史等を理解した上で、赤色も含めた7色のべこの中から好きな色のべこを選び、自分流に絵付けをします。『赤べこ＝赤じゃなくてもいい』をテーマに、絵付け体験を通して新しいものの見方・考え方を身につけます。この体験や、体験後の交流活動の中で、自分の個性を大事にし、相手の考えを尊重する心を養います。本プログラムは当ホテルのエシカルコンシェルジュが監修しており、これからのVUCA時代（予測不可能）やダイバーシティ（多様性）時代に必要なものの見方を身につけます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール4（ターゲット4.1）：赤べこの伝説や由来そこに関わる人々の歴史、作成手順を通じて多様性等について学びます。
▶ゴール5（ターゲット5.1）：固定観念に囚われず、ものの見方を一方向（単一）からではなく多方向（複眼）から考える。

Active　Resorts　裏磐梯

多色赤べコ

館内ディスプレイ1

館内ディスプレイ2

事前学習

▶「赤べこ＝赤色」の理由や伝説・由来等を調べる
▶多様性について調べる（個人の価値）

【施設で対応できること】
▶プログラムに関する資料を送付

現地学習

▶会津伝統品の赤べコがどのように作られているのかを現地で学ぶ
▶実際に好きな色を選び、自分流に絵付けを体験する
▶多様性の本質、多角的なものの見方を学ぶ

～タイムスケジュール例～
・到着　16:30
・赤べこ絵付け体験　17:00～18:30
・夕食　18:30　～　19:30
・入浴　19:30　～　21:00
・就寝　22:30

事後学習

▶絵付けしたベコの鑑賞会を通して、互いの個性を尊重し合う
▶固定観念や既成概念に囚われず、自分たちには今後何ができるのかを導き出す

【施設で対応できること】
▶年齢に応じた、事後学習シートの配布
▶事後学習シートのフィードバック

受入人数	10名　～　50名
受入可能時期（休業日）	通年（不定休）
受入可能時間	8時　～　19時
体験時間	60分　～　90分

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	@1,800円
備考(雨天対応等)	Active　Resorts裏磐梯宿泊者のみ受講可。

▶問い合わせ
企業/施設名称：Active Resorts 裏磐梯
担当名：齋藤　雅人
TEL：0241-32-3111
営業時間：年中無休
休館日：要問合せ

SDGs探究プログラム名

④富良野自然塾裏磐梯校　～五感を使って地球環境問題を学ぼう！～

北塩原村（会津地域）　グランデコリゾート

SDGs17の目標
該当No.

6　13　15

【プログラムの内容】

▶作家：倉本聰氏が塾長を務める富良野自然塾裏磐梯校では、専属のインストラクターが、地球の壮大な物語や生物の進化を分かりやすく解説します。裏磐梯の大自然の中で五感を使って地球環境問題を楽しみながら学ぶことができます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール6（ターゲット6.6）：地球を直径１ｍに想定した場合、普段使っている水の量はどれくらいか。また、1日で水をどのくらい使っているか。水の大切さを学ぶ
▶ゴール13（ターゲット13.3）：地球の気温変化の歴史や、産業革命以降の便利な生活の話から気候変動について学ぶ
▶ゴール15（ターゲット15.2,15.3）：葉、空気の循環、水の循環、熱帯林の話から森の大切さを学ぶ

緑の教室（約10分）

石の地球（約30分）

地球の道（約50分）

裸足の道（約30分）

事前学習

▶人間が生きていくのに必要なものは何か考えてみる
▶地球の気温は直近100年～200年で何度上がっているか調べる

【施設で対応できること】
▶学校を訪問し、1時間程度の事前講話（有料）

現地学習

▶【緑の教室】 生きていくために欠かせない酸素を作り出す「葉」、水を供給する「森」の大切さを学ぶ
▶【石の地球】直径１ｍに置き換えた地球の尺度で、地球の構造や宇宙・水や森の問題を体感的に学ぶ
▶【地球の道】地球誕生から46億年を460mに置き換え、地球の壮大な歴史を振り返りながら、未来について考える
▶【裸足の道】普段使っている視覚を隠し、他の五感を使って自然を感じる

事後学習

▶自分の住んでいる街を五感を使って感じてみよう
▶地球環境にとってよいことを普段の生活でやってみよう

【施設で対応できること】
▶オンラインにて地球環境にとってよいことをみんなで話すワークショップに参加

受入人数	2名　～　150名（一度に体験する場合）
受入可能時期（休業日）	6月　～　10月（不定休）
受入可能時間	8時　～　16時
体験時間	1時間　～　2時間

対象	小学4年生以上・中学生・高校生・大学生
1人/1回当たり料金	小学生以上　@1,650円（団体料金）
備考（雨天対応等）	・事前学習で学校を訪問し講話する場合は、交通費＋11,000円で承ります。 ・雨天時でも、雷が鳴らない限り催行します。

▶問い合わせ
企業/施設名称：グランデコリゾート
担当名：佐藤・遠藤・塚本
TEL：0241-32-2530
営業時間：9:00~16:00
休館日：不定休

SDGs探究プログラム名

⑤ 磐梯山を通して火山のすばらしさと恐ろしさを理解

北塩原村（会津地域）　磐梯山噴火記念館

SDGs17の目標該当No.　11　13　15

【プログラムの内容】

▶福島県を代表する活火山の磐梯山を通して、噴火の仕組みや火山災害や火山のすばらしさを学ぶことができます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール11 ：磐梯山という火山の特性を理解し、その地域が火山に強い町をつくり、住み続けられるようにする
▶ゴール13： 気候変動に伴い、短時間に大雨が降り、火山地域では土砂災害が発生する。防災マップの理解が重要
▶ゴール15： 国立公園である磐梯山地域の自然を守ることで、住民も観光客も自然の重要性を理解する

事前学習
火山の仕組み（60分）

フィールドワーク（1）
裏磐梯スキー場で噴火解説（120分）

フィールドワーク（2）
猪苗代町で猪苗代湖誕生の解説（120分）

フィールドワーク（3）
猪苗代町で火山災害解説（120分）

事前学習

▶(1) 火山の仕組み
▶(2) 磐梯山の成り立ち
▶(3) 磐梯山の火山災害
▶(4) 磐梯山の恵み

【施設で対応できること】
▶オンライン学習の対応が可能
▶当館・宿泊先（北塩原村・猪苗代町）での学習対応可能
※事前学習（座学）のみのお申込みも可能
　館内実施：10名～50名まで / 宿泊先：200名規模まで

現地学習

下記（1）～（4）の中から選択する。
▶(1) 磐梯山の火口へのトレッキングを通して、火山の仕組みや成り立ちを学習する
※荒天時は、（2）・（3）・（4）のどれか1つに変更
▶(2) 猪苗代町の1888年の噴火の被害があった現場を訪ね、火山災害の恐ろしさを学習する
▶(3) 5万年前の噴火や猪苗代湖の誕生について学習する
▶(4) 猪苗代湖の水が郡山盆地の農業利用のために活用されることから、水の重要性を学習する
※現地学習（フィールドワーク）のみのご案内も可能
　受入人数は10名～20名まで

事後学習

▶(1) 自分たちの住む地域と火山地域の違いをまとめる
▶(2) 日本は火山大国と言われるほど、火山が多い国であることを認識し、日本で暮らす方法をまとめる

【施設で対応できること】
▶オンラインで授業に参加し、指導する

受入人数	10名 ～ 20名
受入可能時期（休業日）	通年（無休）
受入可能時間	4月～11月：8時 ～ 17時 12月～3月：9時 ～ 16時
体験時間	座学60分、フィールドワーク120分 （館内見学は別途30分）

対象	中学生・高校生
1人/1回当たり料金	座学1回 1万円（1団体）、フィールドワーク（120分）2万円。館内見学は、別途中高生@500円要。（講師の交通費、宿泊先の会場費は別途）
備考（雨天対応等）	・「座学+フィールドワーク」のセットが基本形ですが、どちらかのみでもご対応可能です。 ・フィールドワーク時は、歩きやすい靴でお越しください。

▶問い合わせ
企業/施設名称：磐梯山噴火記念館
担当名：館長　佐藤　公
TEL：0241-32-2888
営業時間：8:00 ～ 17:00
休館日：　無休

SDGs探究プログラム名

⑥磐梯山噴火から学ぶ森と歴史そして防災

北塩原村（会津地域）　休暇村裏磐梯

SDGs17の目標該当No.　5　6　11　15　17

【プログラムの内容】

▶裏磐梯の森の恵みに直接触れて野外炊さんを実施します。前日にホールに集まり1888年7月の磐梯山の噴火とそこから生まれた森、その際の日本赤十字社の救護の先駆的な例であることを学びます。翌日は、その森の中で、日本赤十字社の推奨するハイゼックス（強化ポリエチレン製）炊飯袋を使用した野外炊さん（昼食）を実施します。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール5（ターゲット5.5）：男女協働での作業・活動の実施（野外炊さん）
▶ゴール6（ターゲット6.4）：水の大切さを学べるハイゼックス炊飯袋を使用した野外炊さん
▶ゴール11（ターゲット11.ｂ）：災害時における炊飯の事例体験　いざというときに災害リスク管理
▶ゴール15（ターゲット15.1,15.2）：裏磐梯の森林の大切さを見て感じて考える
▶ゴール17：平時における世界初の救護活動であった磐梯山の噴火時の日本赤十字社の災害救助活動から自助・共助・公助を考える

磐梯山と裏磐梯の位置関係

ハイゼックス炊飯袋

男女協働野外炊さんの状況

裏磐梯の森の恵みに接した野外炊さん

事前学習

▶磐梯山噴火の歴史や日本赤十字社の災害救助活動
▶現地で行う野外炊さんのチームワークづくり・役割分担
▶裏磐梯の場所、地形について

【施設で対応できること】
▶プログラムに関する資料提供
▶野外炊さん場所の情報提供/オンライン説明可

現地学習

▶磐梯山の噴火から育まれた森の大切さ
▶噴火による災害救助活動の歴史
▶ジェンダー平等、協働を通じての野外炊さん
▶ハイゼックス炊飯袋を使用しての防災学習と水の大切さ

～スケジュール（案）１日目～
・到着　16：00　　・磐梯山噴火を学ぶ　16：30～17：00
・夕食　17：30　　・入浴　18：30～20：00　　・消灯　21：00
～スケジュール（案）２日目～
・朝食　7：00　・野外炊さん　10：00～14：00　・出発　14：30

事後学習

▶森の恵みや水の大切さとどう向き合うか
▶協働作業を通じて何を感じたか
▶あなたの非常時の備えは万全か

【施設で対応できること】
▶オンラインにて学校と連絡を取ること可

受入人数	40名　～　250名
受入可能時期（休業日）	6月　～　10月（不定休）
受入可能時間	１泊２日を基本としますが、日帰りの場合 10時～14時
体験時間	４時間　～　5時間30分（昼食時間含む）

対象	中学生・高校生
1人/1回当たり料金	カレーライス　@２,000円 バーベキュー　@2,700円
備考（雨天対応等）	・前日に、磐梯山噴火の講義をご希望の場合は、講師謝礼代として15,000円別途要。 ・雨天時は炊事棟内で各班ごとに実施可能。

▶問い合わせ
企業/施設名称：休暇村裏磐梯
担当名：　岩脇　・　長嶺
TEL：0241-32-2421
営業時間：9：00－18：00
休館日：不定休

SDGs探究プログラム名

⑦持続可能な視点で見る、国指定重要文化財「天鏡閣」の見学

猪苗代町（会津地域）　国指定重要文化財 天鏡閣

SDGs17の目標該当No.　8　11

【プログラムの内容】

▶天鏡閣の歴史や特徴をはじめ、当時どのように利用されていたかを知ることで、日本の近代歴史や文化等について学ぶことができます。貴重な文化財を保存しながら見学施設として利活用している方法を知り、地元の歴史や文化財に関心を持つきっかけを作ります。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール8（ターゲット8.9）：施設を利活用することで文化を守り、持続可能な観光の在り方を促進する。
▶ゴール11（ターゲット11.4）：文化財及び自然遺産の保護・保全の努力。時を経ても大切に保全され、その価値が生き続けることを学ぶ。

ルネッサンス調の洋風建築「天鏡閣」

賓客客間

賓客食堂

館内の利活用（作品展示）

事前学習

▶重要文化財とは何かを調べる
▶天鏡閣が建てられた時代の暮らしの様子を調べる
▶なぜ猪苗代町に天鏡閣が建てられたのか経緯を調べる

【施設で対応できること】
▶パンフレット送付
▶天鏡閣ホームページの360°ビューワーで館内の様子を見ることができる。

現地学習

▶ガイドから話を聞く
▶天鏡閣の歴史や特徴、調度品・装飾品について学ぶ
▶文化財の維持管理をしながら活用し、広く知ってもらうための工夫などを学ぶ

事後学習

▶自分達の地域に重要文化財があるかを調べる
▶自分達の地域にある歴史や文化財の新たな価値を見つける
▶自分達の地域の歴史的な建物と景観をいかしたまちづくり（保全）について考える

【施設で対応できること】
▶まとめ資料や感想などを館内へ展示し、来館者へ見てもらう。また、施設のホームページで紹介する

受入人数	1名　～　30名
受入可能時期（休業日）	通年
受入可能時間	5月～10月　8:30～17:00 11月～4月　9:00～16:30
体験時間	45分

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	小中学生@100（80）円、高校生@210（160）円、一般@370（320）円 ※（　）20名以上団体料金
備考(雨天対応等)	

▶問い合わせ

企業/施設名称：（公財）福島県観光物産交流協会 天鏡閣
担当名：　長沼　あけみ
TEL：0242-65-2811
営業時間：5～10月　8:30～17:00
　　11～4月　9:00～16:30
休館日：無休

SDGs探究プログラム名

⑧Lotusが考える　心を育む癒しの木のものづくり体験

会津若松市（会津地域）　NPO法人Lotus

SDGs17の目標該当No.　4　12　15

【プログラムの内容】

▶子育て支援団体のNPO法人Lotusが提供するのは、木工の場でも、体験の場でも、体験キットでもありません。「木育」という、幼少期より自然素材（木）に触れて育ち、将来に亘って感性豊かな心を育むためのプログラムです。物の“価値”※を知ることで、地域の資源・物語を大事にする『心』、森の恵み＝自然素材を五感で楽しむ『心』を育てます。
Lotusでは、素材もヒトも、“なんにでもなれる”。 創造力を膨らませ、自分だけの世界を自由に作りましょう。
※会津若松のシンボル『鶴ヶ城の本丸の松の伐採木』（銃痕はありません）などを素材として用意しています。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール4（ターゲット4.7）：木育を通じて、持続可能で豊かな心を育む。
▶ゴール12（ターゲット12.8）：伐採された木材の価値を知り、新たな命を吹き込む。
▶ゴール15（ターゲット15.2）：適切な時期に適切な量を伐採することにより、健全な森林の育成に努める。

Lotus wood village

木の温もりあふれる店内

創造力が膨らむ素材ビュッフェ①

創造力が膨らむ素材ビュッフェ②

事前学習

▶『木育』がもたらす効果について調べる
▶ものづくりのテーマを決める。（歴史、物語など自由）

【施設で対応できること】
▶導入部分を事前のオンライン講義（動画）で実施することが可能です。※ものづくりの素材内容もお伝えします
※別プログラムはNPOとしての取り組みや団体の活動についてより深く学ぶことができます。よりSDGsの視点でNPOを学びたい方はそちらのプログラム参加を推奨します

現地学習

▶ものづくりビュッフェ
店内には、樹齢130年の鶴ヶ城の木々をはじめ、戊辰戦争150年の年に架け替えられた会津のシンボル鶴ヶ城廊下橋の木片など、価値ある木材や木目が楽しめる素材がたくさん並んでいます。
通常だと廃棄されてしまう素材の『価値』を知ることで、ものづくりのストーリーにより深みが増します。
『ビュッフェ形式』で、好きな素材を自由に組み合わせて自分だけの世界を作ります。

事後学習

▶持ち帰った作品について、相互に伝え合い共有する

受入人数	１０名　～　２５名
受入可能時期（休業日）	通年の休館日(月･木)に受入
受入可能時間	１０時　～　１２時／ １３時　～　１５時
体験時間	９０分　～　１２０分

対象	小学生･中学生･高校生
1人/1回 当たり料金	プログラム受講料 1人あたり　3,000円（サプライズお土産付！）
備考 (雨天対応等)	現地学習は事前学習の内容も含みます。 NPO紹介の事前学習のみをご希望の場合は、 別途　１団体3,000円で承ります。

▶問い合わせ
企業/施設名称：NPO法人Lotus
担当名：玉川/小椋
TEL：0242-32-2255
営業時間：10:00~17:00
休館日：月･木

SDGs探究プログラム名

⑨誰一人取り残さない　Lotusが考える子育て支援を体感しよう！

会津若松市（会津地域）　NPO法人Lotus

SDGs17の目標該当No.　4　16

【プログラムの内容】

▶NPO法人Lotusでは、『全てのお母さんを一人にしない』『子どもたちを支援の網から取りこぼさない』ように、幅広い支援を行っています。支援が必要なのは子どもだけではなく（母）親も同じです。虐待や体罰など、子どもを取り巻く負の連鎖から子どもたちを解放するために、親の“心を育む”こと、地域との“繋がりを育む”ことが必要だと考えています。
保育園が母体の当団体では、東日本大震災後、安心安全に遊べる屋内遊び場が必要だと考え『木育広場もくれん』を作りました。
NPO法人Lotusは、親子と地域を繋ぐ“ハブ役”という立ち位置で、時代に必要なものをつくり、進化を続けている団体です。
子育て環境の未来を見据え、“ないものはつくる”子育て支援団体の活動をぜひ見に来てください。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール4（ターゲット4.7）：木育を通じて、持続可能で豊かな心を育む。
▶ゴール16（ターゲット16.2）：子どもに対する虐待や暴力・拷問をなくす。

認可小規模・認可外保育園運営

震災後に作られた木育広場もくれん

もくれん①大人も一緒に遊べる遊具

もくれん②コワーキングスペース併設

事前学習

▶自分の住む地域の子育て支援策について調べる
※当団体の事業、理念等は現地学習にて体感していただきます

現地学習

当団体が運営する『屋内遊び場 木育広場もくれん』にて
▶導入講座
NPO法人Lotusが取り組む子育て支援について　45分

▶施設見学　兼　参加型ゲーム『木育スポットを探そう』45分
施設内各所にちりばめられた木育スポットや遊び心スポット、子育て支援ポイントなどを制限時間内に探し出します。
（所要時間は、補足説明の時間を含みます）

事後学習

▶自分の住み地域にあったら良いなと思う子育て支援策を、グループで話合い、まとめてみよう

【施設で対応できること】
▶対話型のオンライン講義
▶現地での長期的体験、インターンも受入可能（要相談）

受入人数	～　１０名
受入可能時期（休業日）	通年の休館日(月･木)に受入
受入可能時間	１０時　～　１２時／ １３時　～　１５時
体験時間	９０分～１２０分ほど

対象	高校生･短大生･大学生
1人/1回 当たり料金	プログラム受講料　１団体　15,000円
備考 (雨天対応等)	

▶問い合わせ
企業/施設名称：NPO法人Lotus
担当名：玉川/小椋
TEL：0242-32-2255
営業時間：10:00~17:00
休館日：月･木

SDGs探究プログラム名

⑩尾瀬国立公園ハイキングで学ぶ～自然環境保護と持続可能な観光～

南会津町（会津地域）　会津アストリアホテル

SDGs17の目標該当No.　8　11　15

【プログラムの内容】

▶名峰や水芭蕉、ニッコウキスゲ等の花に囲まれた本州最大の山岳湿地「尾瀬国立公園」。貴重な自然環境を守る為に、車両の交通規制（対策）・65km以上におよぶ木道・トイレのチップ制など様々な取り組みが行われています。尾瀬国立公園の成り立ちや、観光客により引き起こされた自然環境の変化、自然保護活動の始まりとその取組についての学びを通して、これからの自然との付き合い方や、自然に負荷をかけすぎない暮らし方を考えます。

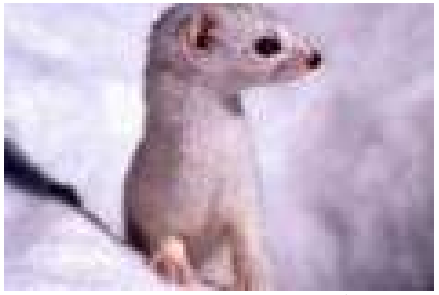
【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール15（ターゲット15.4）：自然保護活動の取組を通して生物多様性を含む生態系の保全に努める。
▶ゴール11（ターゲット11.4）：自然遺産の保護・保全の努力を強化する。
▶ゴール8（ターゲット8.9）：適正な交通規制による渋滞、違法駐車、過度の混雑を避ける『持続可能な観光業を促進する』意識を学ぶ。

水芭蕉

ニッコウキスゲと木道

尾瀬内のトイレの仕組み


尾瀬のマスコットのオコジョ

事前学習

▶尾瀬の湿原の成り立ちを調べよう
▶尾瀬で行われた自然保護活動と、それが始まった理由を調べよう

【施設で対応できること】
▶尾瀬の自然ガイドが学校へ訪問しての事前授業（有料）
▶パンフレットの事前送付

現地学習

▶尾瀬国立公園へは、交通対策が実施されていてシャトルバスへの乗り換えが必要です。一定の不便への協力が、環境保全・混雑緩和の為に必要な場合があることを学ぶ
▶ガイドと一緒に尾瀬ハイキング
＜スケジュール（例）＞
・ホテル出発（バス）　8:00
・尾瀬ハイキング（大江湿原・尾瀬沼・昼食）10:00頃～14:30頃
・ホテル着（バス）　16:00
㊟往路　御池、復路　沼山峠でシャトルバスへ乗換となります。

事後学習

▶自分達が出来る自然保護活動についてグループでまとめてみよう

【施設で対応できること】
▶現地学習後にメールや電話にて追加質問対応

受入人数	30名　～　150名
受入可能時期（休業日）	5月中旬～10月中旬（無休）
受入可能時間	10時　～　14時
体験時間	内容により異なる（要相談）

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	ガイド1名20,000円（10名につき1名必要、貸切バス代、シャトルバス代は別途要）
備考(雨天対応等)	・事前授業の講師派遣料は、20,000円＋交通費。 ・荒天時は、ミニ尾瀬公園の見学等へ変更。

▶問い合わせ

企業/施設名称：会津アストリアホテル
担当名：　佐野
TEL：0241-78-2241
営業時間：8:00～17:00
休館日：不定休

SDGs探究プログラム名

⑪地域資源を再生可能エネルギーへ　～南会津町の取り組み～

南会津町（会津地域）　会津アストリアホテル

SDGs17の目標該当No.　7　17

【プログラムの内容】

▶東日本大震災を経て再生可能エネルギーの利用を推進してきた南会津町。南会津町の90%以上を占める森林、その間伐材のチップを活用した木質バイオマスボイラー。豪雪地帯の雪を活用した雪室（冷熱利用）。地中の熱を冷暖房に活用した地中熱エネルギー利用。再生可能エネルギーを活用していく意義と未来のエネルギーや官民連携のしくみを、施設見学と説明によって学ぶことができます。

▶南会津役場の地熱による館内暖房と駐車場融雪、会津アストリアホテル周辺にあるバイオマスボイラー（現在休止中）と雪室等も見学可能です。

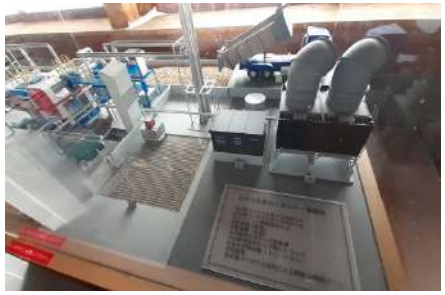
▶南会津町の取り組みの全てが計画通りに進んでいる訳ではなく、再生可能エネルギーを持続可能にするために最も重要な事業性についても率直に伝えます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール７（ターゲット7.2）　：地域資源を活用した再生可能エネルギーの割合を拡大する。

▶ゴール１７　：持続可能な地域社会実現の為に、官民の垣根を超えた取り組みを図る。

東日本大震災の原発事故の教訓


たかつえの森エネルギー機械室

木質バイオマス実証事件施設

雪室への雪入れ作業

事前学習

▶自宅で利用しているエネルギーの種類、使用料を調べてみる

▶利用しているエネルギーの成り立ちを考える

【施設で対応できること】

▶オンラインにより事業参加

▶プログラムによる資料の発送

現地学習

▶南会津町が取り組んでいる再生可能エネルギーの説明
場所:会津アストリアホテル　所要45分

▶再生可能エネルギー利用の施設・取組の見学
バイオマス発電所　場所:会津アストリアホテル　所要30分
雪室　場所:会津アストリアホテル　所要30分
地中熱利用施設　場所:南会津町役場　所要30分

▶まとめ
場所:会津アストリアホテル　所要30分

事後学習

▶未来のエネルギーについて考える

▶自分達が暮らす地域で使われている再生可能エネルギーについて調べる

▶再生可能エネルギーを使用していく意義を自分なりに捉え、発表し、共有する

【施設で対応できること】

▶オンラインによる授業参加

受入人数	30名　～　150名
受入可能時期（休業日）	4月～11月（不定休）
受入可能時間	９時　～　１６時
体験時間	1時間30分～2時間

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	要問合せ
備考(雨天対応等)	基本室内（土日は南会津町役場休業日）

▶問い合わせ

企業/施設名称：会津アストリアホテル
担当名：　佐野
TEL：０２４１－７８－２２４１
営業時間：８：００～１７：００
休館日：不定休

SDGs探究プログラム名

⑫再生可能エネルギー（地熱発電所）見学ツアー

福島市（中通り）　土湯温泉観光協会

SDGs17の目標該当No.　7　9　13

【プログラムの内容】

▶東日本大震災時に体験した3日間の停電から、「灯」が消えることの不安を身をもって経験しました。それと同時に福島県民として原発事故の恐ろしさも体験しました。その体験を基にスタートした「再生可能エネルギー施設（バイナリー発電所）」は、電気を発電するだけではなく、発電時に出る冷却水を利用し「エビ」の養殖に活用するなど、地域おこしの起爆剤として活用されていることも学習します。
また、別プログラムの「レジリエントな地域づくり」をあわせて受講することによって、学習効果を高めることができますので、併用での受講を推奨します。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール7：国立公園内で再生可能エネルギーという未来に向けたエネルギー事業。
▶ゴール9（ターゲット9.1，9.4）：発電により得た収入を福祉に利用したり、発電時に出る冷却水を再利用し養殖事業を展開。
▶ゴール13：東日本大震災での教訓を活かした自然災害でも「停電しない町」。

バイナリー発電所

発電所　見学

発電時の冷却水を活用したエビの養殖

土湯温泉　全景

事前学習

▶発電にはどのような種類があるか？を調べる
▶再生可能エネルギーとはどんなエネルギーかを調べる
▶日本の地熱/温泉熱資源について調べる
▶土湯温泉の取り組みについて調べてみる

【施設で対応できること】
▶オンラインで授業へ参加し、発電について説明する
▶土湯温泉のパンフレット送付

現地学習

▶発電所があるのは、土湯温泉の共同源泉地域内なので、温泉の仕組みを学ぶことができる
▶地域内を流れる川は「11年連続日本一の荒川」であり、約60万年前の地層があったりなど国立公園の自然の豊かさを実感できる
▶実際の発電機のそばで大きさ、音、を感じてもらう
▶エビの養殖を始めたきっかけと展望について
※荒天時は、発電所の見学は中止とし、会議室等で座学で対応致します（要相談）

事後学習

▶どうして再生可能エネルギーの普及が進まないのかを考えてみる
▶自分たちの町では災害への備えとしてどういった対策がとられているか調べてみる
▶自分たちの町で特産品を使った町おこしをするとしたらどうのようなものが考えられるか

【施設で対応できること】
▶オンラインで授業に参加し、生徒の発表を聞く

受入人数	人数については要相談
受入可能時期（休業日）	4月　～　11月（休業無）
受入可能時間	9時　～　16時
体験時間	60分　～　90分

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	@1,000円
備考（雨天対応等）	・別プログラム「レジリエントな地域づくり」との併用受講推奨（1団体あたり10,000円/60分から～） ・温泉たまご作りも可（1人当たり別途100円）

▶問い合わせ
企業/施設名称：土湯温泉観光協会
担当名：　加藤　舞
TEL：　024-595-2217
営業時間：　8：30～17：30
休館日：　なし

SDGs探究プログラム名

⑬レジリエントな地域づくり

福島市（中通り）　土湯温泉観光協会

SDGs17の目標該当No. 8 11 13

【プログラムの内容】

▶磐梯朝日国立公園内に位置する土湯温泉は自然豊かな土地です。そのぶん、自然との闘いの歴史があります。地域を流れる「荒川」の氾濫、「土湯大火」と呼ばれる大火事、東日本大震災と、何度も甚大な被害を受けました。その度に地域住民一丸となり「まちおこし」をしながら復興してきました。自然災害や高齢化率56%という過疎化が進んでいる地域で、廃旅館の利活用、若者の定住促進など「まちづくり」について実際の担当者からの講演後、現地を視察します。また、別プログラム「再生可能エネルギー（地熱発電所）見学ツアー」と合わせることで、学習効果を高めることができますので、併用での受講を推奨します。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール8　：再生可能エネルギーを基にエビの養殖事業など雇用創出に励み若者の定住を促している。
▶ゴール11　：過去の災害から学んだ「災害に強いまちづくり」（再生可能エネルギーによる発電や、景観形成など）
▶ゴール13　：自然災害に対する強靭性及び適応能力の強化を目指したまちづくり施策を行っている。

土湯温泉　全景

廃旅館をリノベーションした施設

エビ釣り堀

「まちづくり」に関する講演会

事前学習

▶自分たちの町の問題点とは何か？
▶どんな町にしたいのかのビジョン設定

【施設で対応できること】
▶土湯温泉観光パンフレット送付パンフレット送付
▶土湯温泉のＳＤＧｓへの取り組みについてwebで紹介

現地学習

▶自然災害時の町の備えを考える。土湯温泉では利用可能な資源を選び出した結果、水力発電とバイナリー発電にたどり着いた
▶発電事業により「停電しない町」になったが、それだけではなく、発電時に出る「冷却水」を利活用することで「エビの養殖」という更なる事業を生み出した
▶廃旅館をそのままにせずに利活用するためのアイデア
▶町の過疎化・高齢化問題の解決に向けた取り組みについて
①「まちづくり」についての講演…… 60分
②現地視察……15～30分

事後学習

▶自分たちの町では災害への備えとしてどういった対策がとられているのかを調べる
▶町の活性化のためにどのような施策がされているのか
▶自分たちの町で特産品を使った町おこしをするとしたらどのようなものが考えられるか

【施設で対応できること】

受入人数	10名　～　100名
受入可能時期（休業日）	通年（休業無）
受入可能時間	9時　～　16時
体験時間	60分　～　90分

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	1回　10,000円
備考(雨天対応等)	別プログラム「再生可能エネルギー（地熱発電所）見学ツアー」の併用受講推奨。

▶問い合わせ
企業/施設名称：土湯温泉観光協会
担当名：　加藤　舞
TEL：　024-595-2217
営業時間：　8：30～17：30
休館日：　なし

SDGs探究プログラム名

⑭もったいない桃のシンデレラストーリー

福島市（中通り）　ももがある

SDGs17の目標該当No.　2　5　12

【プログラムの内容】

▶福島の特産である桃の畑を実際に見ながら生産者の課題・フードロスの現状など話を聞くことができます。また商品化までの仕組みを知り、農作業に触れたりフードロスを無くすために考案した冷凍桃商品を味わうなどの体験をすることで、自分事として捉え、持続可能な循環農業モデルのアイディアを生み出すきっかけを作ります。完熟桃の加工場は、多岐に渡る年代の女性が活躍しておりライフスタイルに合わせた働き方を実践しています。女性が働きやすい環境についても考えます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール2（ターゲット2.3）　：農業生活性と所得の倍増が図れる。
▶ゴール5（ターゲット5.5）　：女性の働きやすい環境・女性の感性を活かす。
▶ゴール12（ターゲット12.5）　：規格外の生産物の良さを活かした商品を開発し、廃棄を無くす。

木になっている桃（7～9月）

これらは全て規格外

完熟桃を加工

1年中生桃を味わえる商品に

事前学習

▶食材ロスやごみ廃棄量について
▶持続可能な農業について
▶女性の働き方について

【施設で対応できること】
▶オンラインでの現状紹介
▶関連資料の配布

現地学習

▶生産現場の話を聞く、見る、触れる
▶規格外の桃を使った商品を味わう（キッチンカー）
▶日本の出荷基準は厳しい。規格外でも価値を見出すことで新たな商品が生まれ、地球にやさしく、農家さんにやさしい取組ができる

①桃畑（生産者の話、規格外商品に触れる）・・・・１０分
②規格外の桃を使った商品の試食・・・・・１０分
③規格外の桃を使った商品製造工程の見学・・・・１０分
※桃畑と工場までの車で約３０分移動します。

事後学習

▶今まで当たり前に捨てていたものが、実は再利用できるのではないか。新たな魅力があるのではないか。無駄にしていないか

【施設で対応できること】
▶オンラインでの質疑応答

受入人数	5名　～　50名
受入可能時期（休業日）	7月　～　9月（土日祝）
受入可能時間	9時　～　16時
体験時間	30分　～　60分

対象	小学生･中学生･高校生
1人/1回当たり料金	@1,000円
備考（雨天対応等）	③製造工程の見学は一度に２０名までとなります。人数が多い場合は①･②の体験又は入替での実施となります。（要相談）

▶問い合わせ
企業/施設名称：㈱もものがある
担当名：齋藤由芙子
TEL：024-547-3888
営業時間：平日９時～16時
休館日：土日祝日

SDGs探究プログラム名

⑮福島お膳で福島の持続可能な農と食を体験する

福島市（中通り）　摺上亭 大鳥

SDGs17の目標
該当No.　2　8

【プログラムの内容】

▶福島県地場の食材を中心とした『福島お膳』を味わいながら、持続可能な一次産業や食文化を考えます。
▶海から山まで、3地方にまたがる福島県は採れない食材がないほど食材の宝庫です。JAグループの宿として揃えた食材の周辺情報、地元福島県産の食器、食文化も一緒に味わい・学ぶことができます。
▶施設内の六次産業化の様子や、売店での商品パッケージデザイン/PR方法なども学習することが可能です。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール2（ターゲット2.3）：福島の多様な地場食材に触れ、その活用を意識することで小規模生産者の生産性や所得向上を図る。
▶ゴール2（ターゲット2.4）：地場食材を活用することにより、持続可能な食料生産システムを守る。
▶ゴール8（ターゲット8.9）：食事・売店で『雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進する』意識を学ぶ。

施設外観

福島お膳コンセプト

福島お膳（イメージ）

土産処 しのぶ野

事前学習

▶海から山まで、3地方からなる福島県の多様な気候・風土を調べてみよう

現地学習

▶食材の写真・説明文だけでなく、記入欄を設けた教育旅行向け『おしながき』を配布する。味わいのみならず、食材や食器の周辺情報をメモできるようにする
▶食事前・中にも、スタッフから周辺情報の説明をすることが可能

事後学習

▶メモを元に、気になった食材の産地や、PR方法を検討する

受入人数	2名 ～ 200名
受入可能時期（休業日）	通年（不定休）
受入可能時間	17時30分 ～ 20時
体験時間	60分

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回 当たり料金	小学生・中学生：1泊2食付@14,500円（税別） 高校生：1泊2食付@16,000円（税別） （プログラム費用は、宿泊料金に含む。）
備考 (雨天対応等)	夕食時のプログラムにつき、受入可能時間は夕食提供開始可能時間を記載しております。

▶問い合わせ

企業/施設名称：摺上亭　大鳥
担当名：　石毛
TEL：　024 – 542 -4184
営業時間：　8:30～19:00
休館日：不定休

SDGs探究プログラム名

⑯日本酒アドバイザーと考える持続可能な日本酒文化

福島市（中通り）　摺上亭 大鳥

SDGs17の目標該当No.　2　8

【プログラムの内容】

▶良質な水と米から作られる日本酒は、高度な二次加工品であり、福島は日本有数の産地です。日本酒BARを通じてJAグループの宿ならではの“六次産業化”の視点で紐解き、持続可能な米生産・日本酒文化を考えます。
▶付加価値を高める/魅力を伝える産品販促手法として、酒器・空間演出・販売方法、鮮度を保つ世界初のサーバー開発などの説明と、日本酒アドバイザーとの対話から、良好な経済循環や新時代の作り手像を学びます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール2（ターゲット2.3）：日本酒の原料である酒米、水田を守ることで小規模生産者の生産性や所得向上を図る。
▶ゴール2（ターゲット2.4）：日本酒の原料である酒米、水田を守ることで持続可能な食料生産システムを守る。
▶ゴール8（ターゲット8.9）：雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進する。

施設外観

日本酒バー香林

日本酒の鮮度を保つ世界初のサーバー

日本酒アドバイザー

事前学習

▶海から山まで、3地方からなる福島県の多様な気候・風土を調べてみよう

現地学習

▶営業時間外に日本酒BARを見学することができる。スタッフの創意工夫による空間デザインを直接学ぶ
▶ディスプレイされた空のボトルを見ながら、気になるラベルを選び、日本酒アドバイザーとの対話で紐を解く。日本酒アドバイザーが豊富な知識で、日本酒文化、米生産、作り手の思いなどを解説する
▶日本酒は、自然の素材、科学的な基盤、作り手の創意工夫、観光地での販売促進など、高度な六次産業かつ雇用基盤であり、新時代の作り手像はキャリア教育にもつながる

事後学習

▶気になった酒造や産地を追加で調べ学習する

【施設で対応できること】
▶『ふくしまの酒』というリーフレットの配布。※日本酒製造の科学・福島の水や米の重要性、酒造の思いなどが一覧できます

受入人数	2名　～　200名
受入可能時期（休業日）	通年（不定休）
受入可能時間	9時　～　17時
体験時間	60分

対象	小学生、中学生、高校生
1人/1回当たり料金	プログラム費用は、宿泊料金に含む。※宿泊者以外は受講不可
備考（雨天対応等）	持続可能な米生産・日本酒文化を考えるプログラムです。アルコールの提供はありませんので、中学生以上の受入も可能です。（要事前打ち合わせ）

▶問い合わせ
企業/施設名称：摺上亭　大鳥
担当名：　石毛
TEL：　024 – 542 -4184
営業時間：　8:30～19:00
休館日：不定休

SDGs探究プログラム名

⑰獣害被害を資源に活用　猪革ワークショップ体験

伊達市（中通り）　伊達市農林業振興公社

SDGs17の目標該当No.　2　5　12　15

【プログラムの内容】

▶福島県で広がる有害獣による山林荒廃・土砂災害・耕作放棄地の増加などの現状を知りつつ、 駆除したイノシシの革の利活用を体験することで、持続可能なライフスタイルを探ります。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール15：山林荒廃や土砂災害の防止として現状を学ぶことができる。対策の結果、2.3：農業生産性と所得の倍増が図られる。
▶ゴール5：女性の社会参加を、商品製造・利活用を過程で学ぶことができる。
▶ゴール12（ターゲット12.8）：自然と調和したライフスタイルに関する意識を高め、人と有害獣の生活域の在り方や調和を考えることができる。

イノシシによる山林被害

現地学習(所要時間４５分)

ワークショップ(所要時間１時間)

完成したキーホルダー

事前学習

▶自分たちの住んでいる地域と伊達市を比べてみる
▶イノシシの革はどんな革なのか調べてみる
▶有害鳥獣とは何か？どんな被害をもたらしているのか調べてみる

【施設で対応できること】
▶資料の発送(CDデータ)

現地学習

▶伊達市で原発事故の影響や、狩猟者の高齢化、さらに農業従事者の減少で広がる有害鳥獣による山林荒廃や結果としての土砂災害、耕作放棄地の現状を学ぶことができる
▶駆除した際のイノシシ革を用いた体験や、品評会を通じて、命を大事にし、愛着を持って長く使うライフスタイルを学び、自然との調和を意識した持続可能な社会づくりを意識することができる
▶ワークショップではカラフルなイノシシ革を使ってオリジナルの革製品を作る。革製品の製造・商品開発に関しては、女性の社会参加を促し、地域雇用を確保していることを学ぶことができる

事後学習

▶自分の住む地域の農業、狩猟、有害鳥獣による被害について調べ、どのような対策が必要かグループで話し合ってみよう
▶お互いに作った作品の品評会を行う
▶InstagramやFacebookなどSNSを使って作った作品を投稿（ @noubayasiでメンションしたりタグ付け）

【施設で対応できること】
▶資料の発送(CDデータ)(実際にプログラムに参加しての、児童・生徒の意識の変化を記入できる資料)

受入人数	10名　～　30名 1日3交代制で90名まで対応可
受入可能時期（休業日）	4月　～　12月（12/29～1/3）
受入可能時間	9時　～　17時
体験時間	1時間～2時間

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回 当たり料金	ワークショップ一式26,000円から、材料費１個600円から。詳しくはお問い合わせください
備考 (雨天対応等)	出張体験可能。（要相談） 1ヶ月前までの予約をお願い致します。

▶問い合わせ

企業/施設名称：（一社）伊達市農林業振興公社
担当名：齋藤　知世
TEL：024-573-2150
営業時間：9時00分～１７時00分
休館日：土日・祝日(年末年始)

SDGs探究プログラム名

⑱名峰 霊山 wakuwaku ハイキング

伊達市（中通り）りょうぜん　こどもの村

SDGs17の目標該当No.　6　11　15

【プログラムの内容】

▶軽装で気軽に楽しく！ 絶景を眺めよう！道先案内人ガイド付きハイキングでは、湧き水で水分補給しながら「ごみを捨てない」「ごみがあったら拾う」を心掛けてもらいます。自然の豊かさを体感しながら、歴史（修験道や南北朝時代）も学べます。ちょっとした気持ちや心掛け・小さい行動が、豊かな自然と陸地環境を守ることにつながること（SDGs取り組みのきっかけ）を知ることができます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール6（ターゲット6.6）　：自然豊かな“霊山”を肌で感じることにより、自然を守ることが生態系の保護に繋がることを学べる
▶ゴール11（ターゲット11.4）：道先案内人ガイドにより、文化遺産および自然遺産の保護・保全の取り組みが学べる
▶ゴール15（ターゲット15.1）：道先案内人の組織と活動を知ることにより、自然および生態系の維持に向けた取り組みが学べる

湧き水で水分補給用の水筒準備

ごみを捨てない！ あったら拾う！

ガイドのもと安全トレッキング

豊かな自然と絶景を眺め自然満喫

事前学習

▶名峰 霊山って、どんな山？を知ってもらう（動画提供）
▶人々の生活と切り離せない自然の役割を調べる
▶修験道って何？　北畠顕家ってどんな人？を調べる

【施設で対応できること】
▶プログラムに関する資料およびパンフレット送付と霊山動画紹介
▶リモート会議でのプログラム概要説明および事前打ち合わせ

現地学習

▶豊かな自然を感じつつ、休憩と水分補給を兼ねながらの ”霊山ハイキング” は、自然を守りたい気持ちが強くなると共に、ごみを捨てない、拾うなどの小さな行動が、SDGsに繋がることに気づく
▶豊かな自然が生む “湧き水” を実際に見て、触れて、口にすることによって、自然の恵みの有難さと自然の大切さを学べる
▶霊山歴史ガイドにより修験道や南北朝時代を学ぶことができる
▶道先案内人と共有の時間を過ごすことで、案内人たちの自然(霊山)を守ろうとする意識の高さと活動役割を知ることができる

事後学習

▶ハッシュタグこどもの村（#こどもの村）でインスタ投稿
▶自分達でも今からできるSDGsの取り組み方を探る
▶小さい行動や心掛けからSDGsに取り組んでみる

【施設で対応できること】
▶こどもの村「活動ブログ」でハイキング体験紹介
▶生徒さん向けに感想や意識変化についてのアンケート

受入人数	17名 ～ 70名
受入可能時期（休業日）	4月 ～ 11月（無休）
受入可能時間	9時 ～ 13時
体験時間	2時間30分～3時間

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	@1,000円（レクレーション保険を含みます。）
備考(雨天対応等)	荒天時は、「霊山講義」+「ワークショップ（苔テラリウム制作または私だけの竹箸制作）」を実施します

▶問い合わせ
企業/施設名称：（一社）りょうぜん振興公社
りょうぜん　こどもの村
担当名：　荒　恵
TEL：　024 – 589 -2211
営業時間：9:00～16:30
休館日：水曜　※祝日、夏休みを除く
（12月～3月は冬季休業）

SDGs探究プログラム名

⑲フードロスをなくそう！～いちごサイダー誕生物語り～

伊達市（中通り）　道の駅 伊達の郷 りょうぜん

SDGs17の目標該当No.　2　8　12

【プログラムの内容】

▶規格外、この言葉を聞いてあなたは何を思い浮かべますか？市場（店頭）に並ぶ農作物に関しては、大きさや形に規格（選定基準）が設けられています。この規格（選定基準）に満たない商品は、規格外となり加工品として活用される一方、一部は廃棄処理されています。

　また、加工品も売れなければ最終的に廃棄処理となりフードロスに繋がります。伊達市霊山町の特産である“いちご”も例外ではありません。地元農家さんと沢山の協議を重ね、試行錯誤を経て商品開発したオリジナル商品「いちごサイダー誕生物語」の講演を通じて、フードロスを削減する為に自分達ができることや持続可能な地域づくりを考えるきっかけになることでしょう。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール2（ターゲット2.3）：規格外商品を有効活用することにより農業生産性と所得向上が図れる。
▶ゴール8（ターゲット8.9）：商品が売れることが新たな雇用創出や地域活性化に繋がる。
▶ゴール12（ターゲット12.5）：売れる商品を開発することで、廃棄物の大幅な削減に寄与する。

規格外商品（小粒・傷あり等）

パートナーシップで商品開発チャレンジ

オリジナル商品の誕生

いちごサイダー」の試飲

事前学習

▶日本におけるフードロス、食べられるのに捨てられているゴミの量について調べる
▶自分の地域の特産品の規格外の基準について調べる

【施設で対応できること】
▶プログラムに関する資料およびパンフレット送付
▶リモート会議でのプログラム概要説明および事前打ち合わせ

現地学習

▶日本の農産物の出荷基準は厳しく、味は美味しくても規格外（小粒、傷有り、型くずれ等）だと生食では流通しない現状を知る
▶規格外商品をジャム等に加工しても売れなければ廃棄となり、フードロスとなる。こだわりや付加価値をつけて、いかに商品化するか？商品を企画する側・つくる側の責任について考える
▶商品が売れることにより、新たな雇用が生まれ、地域が活性化し持続可能な取組になることを学ぶ。加えて、商品開発の取り組み方や、考え方、開発ステップ、開発手法を知ることができる

事後学習

▶ハッシュタグ＃道の駅＃伊達＃霊山でインスタ投稿
▶自分達でも今からできるSDGsの取り組み方を探る
▶小さい行動や心掛けからSDGsに取り組んでみる

【施設で対応できること】
▶道の駅 伊達の郷りょうぜんホームページ（http://michinoeki-datenosato-ryozen.jp/）で取り組み内容の紹介が可能。
（掲載箇所「NEWS＆INFORMATION」を予定）

受入人数	10名　～　25名
受入可能時期（休業日）	通年（１月１日を除く）
受入可能時間	10時　～　15時
体験時間	90分

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	@400円 （1人1本のいちごサイダー代金を含みます。）
備考（雨天対応等）	・昼食手配も可能です。（要事前予約） ・1～5月は、「いちごのもぎ取り体験」可能。（要事前予約　体験時間４０分、料金　１，６００円）

▶問い合わせ
企業/施設名称：（一社）りょうぜん振興公社
道の駅 伊達の郷 りょうぜん
担当名：　酒井　祐一
TEL：　024 – 573 -4880
営業時間：9:30～18:00
休館日：１月１日（元旦）

SDGs探究プログラム名

⑳千年伝統【上川崎和紙】手漉き和紙体験プログラム（現地体験・出張体験）

二本松市（中通り）　二本松市和紙伝承館

SDGs17の目標該当No.　8　11　12　15

【プログラムの内容】

▶和紙のはがき（1枚）を昔ながらの製法の流し漉きで作ります。上川崎和紙の担い手がほぼいない現状を知り、和紙が出来るまでを学び体験することで、和紙の希少性と物を大切にする心を学びます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール8：上川崎和紙の継承のため、体験講座や地域おこし協力隊の受入れ、独立開業の一助など人的投資ができる。
▶ゴール11：地元中学校に卒業証書作成体験を無料提供し、地元の伝統文化に触れる機会を設けている。
▶ゴール12：和紙の原料である楮の木は、廃棄されることなく全て利用されていることを通して持続可能な社会について考える。
▶ゴール15：先人の暮らしに触れることで森林等の適切な管理、利用について学ぶ。

楮畑での収穫風景

紙漉き作業風景

上川崎和紙

和紙から出来るさまざな商品

事前学習

▶全国の和紙の産地・原料について調べる
▶上川崎和紙の歴史について調べる
▶和紙が出来るまでの工程について調べる

【施設で対応できること】
▶Zoomなどによる遠隔授業
▶素材の送付
（和紙の原木「楮」、黒皮、白皮、カツカラ棒、手漉き和紙など）

現地学習

▶紙漉き作業工程の説明　10分
▶和紙漉き体験　40分
▶和紙から出来る商品に触れる　10分
※和紙漉き体験で製作したはがきは脱水した状態(濡れている）で体験終了になります。下記の方法を選択していただきます。
①濡れたはがきを袋に入れて、翌日中に自宅などの窓に貼り乾燥する。
②脱水後はがきを施設でお預かりし乾燥させ送付する（送料別途）

事後学習

▶自分達の生活で3R（リデュース・リユース・リサイクル）できるもの（こと）について考える

【施設で対応できること】
▶Zoomなどによる遠隔授業

受入人数	現地体験　～　20名 出張体験　～　30名
受入可能時期（休業日）	通年（1月1日のみ休業）
受入可能時間	現地体験　9時　～　17時 出張体験　10時　～　21時
体験時間	60分

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回 当たり料金	小学生・中学生・高校生　共に　@500円 現地体験の場合15名以上団体割引　@400円 （宿泊先での出張体験の場合は出張料・交通費・会場費別途）
備考 (雨天対応等)	卒業証書づくり体験も可能（現地体験のみ） 体験時間90分（30名の場合）、同時体験4名、料金@700円。詳細は、お問合せ下さい。

▶問い合わせ
企業/施設名称：（株）二本松振興公社
二本松市和紙伝承館
担当名：遠藤哲也
TEL：0243-61-3200
営業時間：　9：00~17：00
休館日：元旦

SDGs探究プログラム名

㉑森林環境教育プログラム

大玉村（中通り）　ふくしま県民の森フォレストパークあだたら

SDGs17の目標該当No.　4　7　12　15

【プログラムの内容】

▶環境維持における森林の役割や森林保全の必要性、森林との共生の理念などを学びます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール4（ターゲット4.7）：持続可能な発展を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
▶ゴール7（ターゲット7.2）：再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
▶ゴール12（ターゲット12.8）：持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と知識を持つ。
▶ゴール15（ターゲット15.2）：森林の持続可能な経営を促進し、森林の回復と植林を大幅に増加させる。
（ターゲット15.4）：生物多様性を含む山地生態系の保全を行う。

森林の中で学習

施設（森林館）で学習

管理を体験（木の伐採）

温泉（左）とコテージ（右）

事前学習

▶自然環境と森林との関わりや森林の役割、森林をどのようにして維持していくのかなどを調べる
▶再生可能エネルギーの種類や仕組みを調べる

【施設で対応できること】
▶森林の役割や森林文化など森林に関する多くの資料があるので、必要に応じて提供する

現地学習

▶事前学習で調べたものを、実際に見て触れて体験して、実感する
▶さらに森林整備の体験や森林・木の利用などについてさらに知識を深める
▶コテージ等に宿泊し、森林の中で過ごし森との共生を体験する

事後学習

▶森林保全の意義や人間との関わり、森林を保全をすることの大変さなどを知る
▶それぞれのテーマで感じたことをまとめる

【施設で対応できること】
▶多くの資料があるので、必要に応じて提供できる

受入人数	30名　～　90名
受入可能時期（休業日）	6月～10月 (火曜日：月１～２回)
受入可能時間	9時　～　16時
体験時間	日帰りプラン　3時間 又は　1泊2日

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回 当たり料金	日帰りプラン　@3,000円～ 1泊2日プランは　要相談(メニュ-、人数による)
備考 (雨天対応等)	内容が決まっているものでなく、御相談により内容を作っていくプログラムです。雨天対応も可能です。

▶問い合わせ
企業/施設名称：（公財）ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
フォレストパークあだたら
担当名：　遠藤、若林
TEL：0243-48-2040
営業時間：　9:00～17:00
休館日：火曜日（月１～２回）

SDGs探究プログラム名

㉒災害対応キャンププログラム

大玉村（中通り）　ふくしま県民の森フォレストパークあだたら

SDGs17の目標該当No.　4　13

【プログラムの内容】

▶オートキャンプ場において、災害対応キャンプ（火起こし、野外炊飯、テント設営、ダンボールベッドづくり、非常食調理など）を行い、自然災害等に対する適応能力を強化します。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール4(ターゲット4.7) 持続可能な発展を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
▶ゴール13(ターゲット13.1) 気候関連災害や自然災害に対する適応能力を強化する。

アイスブレーク

一斗缶での野外炊飯の体験

テント設営を体験

ダンボールベット等の設営体験

事前学習

▶自然災害等が 起こった場合にはどのようになるのか、その後の避難生活は時間の経過とともにどのように変化していくのかなどを調べる

【施設で対応できること】
▶過去の事例をＨＰに掲載しているので、本プログラム実施の参考とする

現地学習

▶災害対応キャンプとして、野外炊飯やダンボールベッドづくりなどを体験するほか、非常食を食べることや災害時に役立つキャンプ用品の使い方等を体験する。（コテージ等での宿泊と温泉の利用が可能です）

事後学習

▶自分が住む地域で、どんな災害の可能性があるのか、災害発生時にどうしなければならないのか、避難生活をイメージしてどのような準備あると役立つのか、避難した際にどのように行動していけばよいのかを考える

【施設で対応できること】
▶災害対応のより詳細な情報提供を行う

受入人数	30名 ～ 90名
受入可能時期（休業日）	6月～10月 (火曜日：月１～２回)
受入可能時間	9時 ～ 16時
体験時間	日帰りプラン 3時間 又は 1泊2日

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回 当たり料金	日帰りプラン @3,000円～ 1泊2日プランは要相談（メニュー、人数による）
備考 (雨天対応等)	メニューが決まっているものではなく、御相談により内容を作っていくプログラムです。雨天対応も可能です。

▶問い合わせ
企業/施設名称：（公財）ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団
フォレストパークあだたら
担当名： 遠藤、若林
TEL：0243-48-2040
営業時間： 9:00～17:00
休館日：火曜日（月１～２回）

SDGs探究プログラム名

㉓触れる地球～SDGsの概要、地球規模の問題を学ぶ～

三春町（中通り）コミュタン福島

SDGs17の目標該当No.

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17

【プログラムの内容】

▶コミュタン福島の展示室にある「触れる地球」は、宇宙から見たリアルタイムの地球の姿を映し出す、次世代型のデジタル地球儀です。

▶「触れる地球」の多彩なコンテンツを通して、SDGsの概要や人類が今どのような課題を抱えているかを学ぶことができます（スタッフが解説や質疑応答などを行います）。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

「触れる地球」で学ぶことができるコンテンツを紹介します。

▶ゴール１：貧困線以下の人口率
▶ゴール２：栄養不足人口率、乳幼児死亡率
▶ゴール３：平均寿命、肥満人口率、大気汚染による死者数
▶ゴール４：成人の識字率、初等教育普及率
▶ゴール５：女性議員率、ジェンダーギャップ指数
▶ゴール６：改善水アクセス率、改善衛生アクセス率
▶ゴール７：再生可能エネルギー普及率、電力へのアクセス率
▶ゴール８：経済成長率
▶ゴール９：インターネット普及率
▶ゴール10：所得格差（ジニ係数）
▶ゴール11：メガシティの増殖、都市のPM10濃度
▶ゴール12：プラスチックごみ年間排出量、ゴミ排出量
▶ゴール13：CO_2濃度分布、地球温暖化シミュレーション 地球温暖化とその影響
▶ゴール14：海洋ごみシミュレーション
▶ゴール15：世界の森林火災分布、国別森林面積増減率
▶ゴール16：世界平和度指数、紛争等による国内避難民
▶ゴール17：SDGsインデックス（指数）

福島県環境創造センター交流棟
コミュタン福島

デジタル地球儀「触れる地球」

展示室の見学（環境創造ラボ）

SDGs体験プログラムの様子

事前学習

▶事前学習は特に必要ありませんが、SDGsの17のゴールや169のターゲットを知っておくと理解がより深まります

【施設で対応できること】
▶詳細はコミュタン福島までお問い合わせください

現地学習

▶「触れる地球」のコンテンツをとおして、SDGsの基本を学び、世界が抱える課題の現状を知ることができます
▶地球規模で物事を見ることの大切さに気づき、自分達の生活を振り返りながら、世界の抱える問題を「自分ごと」として捉えるきっかけとなります
▶展示室内で再生可能エネルギーや循環型社会に向けた資源の大切さを学ぶことができます

事後学習

▶世界の課題を自分の暮らす地域の課題と捉え、自分にできることを考えてみる

【施設で対応できること】
▶コミュタン福島において“ SDGsを理解し、「自分ごと化」しよう！基礎編”のプログラムが受講可能です（要予約）

受入人数	触れる地球　小グループ～20名 見学全体　　200名
受入可能時期（休業日）	通年（月曜日、月曜日が祝日の場合は翌平日）
受入可能時間	9時　～　17時
体験時間	触れる地球　10～30分 見学全体　　50～60分

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	無　料
備考（雨天対応等）	「触れる地球」を一度に体験できる人数は20名程度ですが、全体では、200名程度の受入が可能です。詳細はお問い合わせください。

▶問い合わせ
企業/施設名称：福島県環境創造センター交流棟　コミュタン福島
担当名：安齋、菊地、滝浦
TEL：0247-61-5721
営業時間：9:00～17:00
休館日：毎週月曜
（月曜が祝日の場合は翌平日）

SDGs探究プログラム名

㉔SDGsを理解し、「自分ごと化」しよう！～誰ひとり取り残さない世界を目指して～基礎編

三春町（中通り）　コミュタン福島

SDGs17の目標該当No.

1	2	3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16	17	

【プログラムの内容】

▶事例やクイズを通して、私たちの普段の生活を振り返りながら世界が抱える問題に目を向けることができます。
▶どんな課題があるのか、私たちの生活とどう関わっているのか、私たちに何ができるのかなど、スライドやワークシートを使用しながら、SDGsとは何かを学びます。
▶各自が課題解決に向けてできる取り組みを書き出し、模造紙に貼り付けていくワークショップを行います。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

SDGsの全体像を知ることができる内容になっていますが、特に下記の目標について詳しく学習します。

▶ゴール２：飢餓の現状と日本の食品廃棄の現状を知り、自分にできることを考える
▶ゴール６：安全な水とトイレを利用できない人々の暮らしの一端を知ることで、日本での暮らしとの違いを知る
▶ゴール７：電気を「ふつう」に使用できない暮らしを想像する
▶ゴール８：様々な児童労働の問題点を知り、私たちの暮らしとの関わりを知る
▶ゴール12：食品廃棄物について考え、生活を見直すきっかけをつくる
▶ゴール13：気候変動の事例から、未来のために何をすべきか考える
▶ゴール14：海洋ゴミの現状を知り、自分にできることを考える

福島県環境創造センター交流棟
コミュタン福島

研修の様子
（意見を引き出しながら進行）

研修の様子
（自分にできる取組を考える）

デジタル地球儀「触れる地球」
（地球規模の環境シミュレーションを体験）

事前学習

▶事前学習は特に必要ではありませんが、教科書のSDGsに関する情報に触れておくと、理解がより深まります

現地学習

▶SDGsとは何か、世界にはどんな課題があるのか、何が目標達成につながるのかなどを学びます
▶SDGsの全体像を知り、SDGsを「自分ごと」として捉えるきっかけをつくります
▶課題解決に向けてどんな取組ができるかを考え、模造紙に貼り付けていくワークショップを行います（作成した模造紙は持ち帰っていただき、授業等で継続的にSDGsに取り組むツールとして活用できます）

事後学習

▶ワークショップ前後の考えの変化を発表し共有します
▶ワークショップで得た知識を日常生活につなげ、自分にできる取組を見つけて実践します
▶作成した模造紙を使用し、自分にできる取り組みについて継続的に考えることができます

【施設で対応できること】
▶コミュタン福島において“「未来を創る」コミュタン福島で学ぶSDGs発展編”プログラムによる学習が可能（要予約）

受入人数	小グループ～200名（児童/生徒20～35名をスタッフ1名が案内）
受入可能時期（休業日）	通年（月曜日、月曜日が祝日の場合は翌平日）
受入可能時間	9時　～　17時
体験時間	50分　～　60分

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	無　料
備考(雨天対応等)	受入人数は展示見学と合わせて200名程度となります。詳細はお問い合わせください。

▶問い合わせ
企業/施設名称：福島県環境創造センター交流棟　コミュタン福島
担当名：安齋、菊地、滝浦
TEL：0247-61-5721
営業時間：9:00～17:00
休館日：毎週月曜
（月曜が祝日の場合は翌平日）

SDGs探究プログラム名

㉕「未来を創る」コミュタン福島で学ぶSDGs　発展編

三春町（中通り）　コミュタン福島

SDGs17の目標該当No.　6　7　13　14　15

【プログラムの内容】

▶SDGsの視点の中から、環境問題・エネルギーをテーマにしたプログラムです。
▶「水」「エネルギー」「気候変動」「海」「陸」の中から、要望に合わせてテーマを選択することができます。
▶SDGsは児童・生徒が自ら参加しながら達成を目指す目標であり、「自分ごと」として、行動につなげていけるような「未来を創る」人材づくりを目指します。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール6（ターゲット6.1、6.3、6.6）：いつも安全な飲料水と衛生的なトイレを確保することができる。河川の水質を改善し、水に関連する生態系の保護・回復を考えることができる。
▶ゴール7（ターゲット7.1～7.3）：資源、エネルギー問題を学び、持続可能なエネルギー、未来の発電のあり方を考える。
▶ゴール13（ターゲット13.1～13.6）：気候変動の緩和や影響軽減に関する知識を深めながら、これまでの生活をふり返り、これからの未来を創造するためにできることを考える。
▶ゴール14（ターゲット14.1、14.2、14.3）：海における様々な問題を実験やワークを通して知ることで、目標達成に向けた行動変容につなげる。
▶ゴール15（ターゲット15.1、15.2）：森林減少や砂漠化を防ぎ、陸上生態系の保護・回復を考えることができる。

福島県環境創造センター交流棟
コミュタン福島

展示見学の様子
（関連する展示で理解や対話を促進）

研修の様子
（多様な視点からの学びをサポート）

研修の様子
（自分にできる取組を考える）

事前学習

▶「基礎編」程度の予備知識があることが望ましいです
▶テーマごとに事前学習資料あり
必要に応じてHPよりダウンロードしてご利用いただけます
詳細についてはHPをご覧ください

【施設で対応できること】
▶HPでの事前学習資料及び紹介動画の提示

現地学習

▶それぞれのテーマについて起きている問題や影響、解決方法を学ぶことができます
▶持続可能な未来を創るための取組、それに伴う相乗効果、トレードオフなど、多様な視点から総合的に学ぶことができます

事後学習

▶ワークショップ前後の考えの変化を共有し発表します
▶自分たちの暮らしと世界とのつながりに着目し、現在の生活を見直すとともに、自分にできる取組について考えます
▶必要に応じてHPより事後学習資料をダウンロードしてご利用いただけます

【施設で対応できること】
▶ HPでの事後学習資料の提示

受入人数	小グループ～200名（児童/生徒20～35名をスタッフ1名が案内）
受入可能時期（休業日）	通年（月曜日、月曜日が祝日の場合は翌平日）
受入可能時間	9時　～　17時
体験時間	50分　～　60分

対象	小学生（基礎編既習の）・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	無　料
備考(雨天対応等)	受入人数は展示見学と合わせて200名程度となります。詳細はお問い合わせください。

▶問い合わせ
企業/施設名称：福島県環境創造センター交流棟　コミュタン福島
担当名：安齋、菊地、滝浦
TEL：0247-61-5721
営業時間：9:00～17:00
休館日：毎週月曜
（月曜が祝日の場合は翌平日）

SDGs探究プログラム名

㉖星の村天文台で 見つける・考える・残していく 未来の星空

田村市（中通り）　星の村天文台

SDGs17の目標該当No.　4　11　12　15

【プログラムの内容】

▶プラネタリウムと65cm大型望遠鏡（太陽望遠鏡）を活用して星空を見ることの学習です。なぜ星空は見える場所と見えない場所が存在するのか？星空が綺麗に見られる場所を守っていく、創っていく知識を学び、子供たちに科学の分野に進める道しるべをつくります。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール4　：学校教育への協力、地域教育推進への協力、地域の自然環境の学習を協力
▶ゴール11（ターゲット11.4）：地域の光害による星空や生物の自然保護・保全の努力を強化する
▶ゴール12（ターゲット12.8）：持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにする
▶ゴール15（ターゲット15.4）：光害による生物多様性を含む山地生態系の保全

福島県最大の口径65cm反射望遠鏡

太陽望遠鏡で黒点やプロミネンス観察

宇宙から見た日本の明るさ学習

星の村の天の川

事前学習

▶自分が住んでいる場所では、どのくらい星が見えているか調べる
▶天の川が見える？見えないを調べる
▶北斗七星が７つ見える？何個見えるかを調べる
▶晴れた夜の空の色は何色かを調べる
▶地球の明かりが分かるアプリをタブレットに入れて学習する

【施設で対応できること】
▶プログラムに関する資料をデーターや紙ベースで送ることが可能

現地学習

▶宇宙が見える星の村で、日常では出来ない体験をしよう
▶プラネタリウムでは星の見える・見えない場所の違いを体感することで、住まいの地域ではどのくらい星空が見えるのか比べてみよう
▶人工衛星から見た夜の地球・日本や住まいの地域の明るさを見て実感する
▶みんなで望遠鏡や双眼鏡を操作し、目では見えない遠くを見る楽しみを体感してみよう

事後学習

▶住んでいる近くにはどのくらい余計な明かりが有るか調べてみる
▶住んでいる近くで星が見える場所と見えない場所では何が違うか調べてみる
▶家の電気を消すだけで、少し星が見える事を体感する
▶星空を眺める

【施設で対応できること】
▶オンラインにて学校と連絡を取ること可

受入人数	1名　～　60名
受入可能時期（休業日）	通年（4～11月　火曜日、12～3月　火・水曜日　休業）
受入可能時間	9時　～　16時
体験時間	30分～90分

対象	小学生・中学生・高校生
1人/1回当たり料金	小学生・中学生　@250円 高校生　@450円
備考（雨天対応等）	・休業日の受入は要相談 ・雨天時も対応可能

▶問い合わせ

企業/施設名称：田村市星の村天文台
TEL：0247-78-3638
営業時間：9:00~17:00(4~11月)
9:00~16:00(12~3月)
休館日：火曜日(4~11月)
火曜・水曜日(12~3月)

SDGs探究プログラム名

㉗あぶくま洞の神秘と地域資源を活かした産業保全について学ぶ

田村市（中通り）　あぶくま洞

SDGs17の目標該当No.　2　4　9

【プログラムの内容】

▶年間約20万人が訪れる「あぶくま洞」では、地元で生産された農産品を買取り、付加価値が付くよう商品化し、売店でオリジナル商品として販売しています。商品開発をすることにより消費量が増え、農家は安心して生産に集中することができ、更に製品製造に係る雇用がうまれ、付加価値が付いているので商品が価格競争に陥らない理想的な仕組みを構築できます。地産地消で環境にも優しい商品には、地元産山ぶどうを100％使用した洞内貯蔵ワインや地元産のえごまを絞った「えごま油」などがあります。本プログラムでは、「あぶくま洞」を散策をして周辺の地質と地下水が折り重ねた悠久の時間、それらを保全する意義などを感じていただいたのち、地域資源の相乗効果による商品価値の向上、地域産業や環境を持続可能に保全する取り組みを一度に学ぶことができます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール2（ターゲット2.4）　：持続可能な食料生産システムを確保し、強靭な農業を実践する
▶ゴール4（ターゲット4.7）　：持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする
▶ゴール9（ターゲット9.ｂ）：産業の多様化や商品への付加価値創造などに資する技術開発研究及びイノベーションを支援する

あぶくま洞全景と切羽

あぶくま洞「滝根御殿」

洞内「ワインセラー」

ワイン塩「grotte(グロット)」

事前学習

▶鍾乳洞を活用した名物の開発はどんなことができるかを考える
▶田村市の特産品を調べよう

【施設で対応できること】
▶事前学習資料「鍾乳洞の科学」や施設パンフレットの送付
▶質疑応答対応（メール、電話、オンライン会議システム利用）

現地学習

▶職員による森林と鍾乳洞の関係、その保護に対する取り組みや姿勢について解説及び説明
▶ボランティアガイドによる洞内案内
▶職員による特産品開発についての説明
▶あぶくま洞開発商品ワイン塩ソフトクリームの試食

事後学習

▶地元の特産品について調べよう
▶特産品を活用した新商品を考えてみよう
▶地元の特徴を活用した付加価値の創造ができないか考えよう

【施設で対応できること】
▶質疑応答対応（メール、電話、オンライン会議システム利用）

受入人数	1名　～　60名
受入可能時期（休業日）	4月　～　11月（）
受入可能時間	9時　～　15時
体験時間	60～70分

対象	小学校（高学年）・中学生
1人/1回当たり料金	小学生　@600円 中学生　@800円
備考（雨天対応等）	上記料金には、鍾乳洞の入洞料金が含まれております。（雨天対応可）　/ 夏季等繁忙期はソフトクリームの試食が対応不可の場合がございます。

▶問い合わせ
企業/施設名称：（一財）田村市滝根観光振興公社
あぶくま洞
担当名：青木･佐々木･吉田
TEL：0247-78-2125
営業時間：8：30～17：00
休館日：年中無休

SDGs探究プログラム名

㉘道の駅でSDGs！～食べて学ぶサステナブルな考え方～

天栄村（中通り）　天栄村振興公社

SDGs17の目標
該当No.

2 3 8 11 12 13 16 17

【プログラムの内容】

▶道の駅ってなんだろう！？産業振興や観光振興等を通じて地域経済の活性化に貢献する機能だけでなく、防災、交流等、様々な地域課題の解決に資する多様な性質を持つ道の駅について学び(事前学習・見学)、放射線量測定の様子(見学)を見知ることで、安心・安全な「食」について考えます。

環境に配慮した安心・安全で高付加価値の天栄村産の食材を使い、協働で調理することで「食」に対する関心を高めます。（調理体験）

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール2（ターゲット 2.3）：道の駅で取り扱っている農作物、加工品、生み出される雇用、流通の仕組み等を学び、経済貢献型の道の駅がもたらす持続可能な地域について探究する。

▶ゴール 2（ターゲット 2.1）：一年中安心、安全でかつ栄養のある食料を十分得られるような取組みについて学び、つくる苦労や努力を考え、食べ物をムダにしない心を育む。

▶ゴール 3：「食」に関心を持ち、美味しいと感じながら食べる楽しむ機会を拡大し、健康で豊かな食生活に貢献していく。

道の駅ってどんなところ！？

「道の駅季の里天栄」店内

農作物の放射線量測定の様子を見学

地域食材を使って調理体験

事前学習

▶「道の駅」とは何か？道の駅が地域にもたらす持続可能な成果や、天栄村について、天栄村の農作物、加工品、流通の仕組みにについてワークブックを使用して学ぶことで、道の駅見学の際の予備知識として役立てます

【施設で対応できること】
▶オンラインで授業への参加。
▶ワークブックの発送。

現地学習

▶道の駅季の里天栄を見学し、天栄村の農作物や加工品を実際に目にし、触れ、また、農作物の放射線量測定器で計測、実体験することで、自ら課題を発見し、探究していく「探究的な学び」の提供。

▶地域の方と交流しながら、天栄村産の農作物等を活用して一緒にお昼ごはんを作って食べます。楽しみながら「食」に向き合い、普段あまりがちな食材のおいしい使い切り方法や調理法などを学び、食品ロスへの関心を高めるきっかけ作りを行います。

事後学習

▶体験先で収集した情報を整理してワークブックを完成させる。課題、目標達成の為にどのように行動したら良いか考え、「自分たちができること」を実践していく。

【施設で対応できること】
▶オンラインで授業への参加

受入人数	10名 ～ 40名
受入可能時期（休業日）	通年（12/31～1/3）
受入可能時間	9時 ～ 16時
体験時間	1時間 ～ 2時間

対象	中学生・高校生・大学生
1人/1回当たり料金	４,５００円（事前・事後学習含む）
備考(雨天対応等)	探究学習素材（ワークブック）を事前に発送します。

▶問い合わせ
企業/施設名称：（株）天栄村振興公社
担当名：　田代 嘉宏
TEL：0248-82-3242
営業時間　9:00～17:00
休館日　　12/31-1/3

SDGs探究プログラム名

㉙天栄村で学ぼう！SDGs～みんなが幸せを感じ笑顔あふれる世界へ

天栄村（中通り）　天栄村ふるさと夢学校

SDGs17の目標該当No.

2　4　7　8　10　12　15　16　17

【プログラムの内容】

▶彼らは問います「美味しいお米は全部富裕層の方たちが食べ、貧困層の僕らの家族は食べられないのです。どうしたら品質が安定した、美味しいお米を作ることができますか？」僕たちは天栄村で彼らと同じ体験をし、学び、考えます。世界中の人々が「おいしい」と「いただきます」を言いながら毎日を楽しく過ごす未来を。本プログラムでは、世界の同年代の青少年からの意見や現状を知り、事前学習した上で農業や自然体験をすることで見識を広め、視野を世界規模に広めていく内容となっています。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール2（ターゲット 2.a):開発途上国等における農業生産能力向上の為に国際協力の強化等を通じてどのようにしたら良いか学ぶ(農業体験)
▶ゴール４(ターゲット４.1):年齢、性別、人種、民族、宗教や経済的地位その他の状況に関わりなく学ぶことができる考えを持つ(全体)
▶ゴール15(ターゲット15.1):森と人間が共生するためにできること、水源の森を守り、次世代に引き継いでいく考えを学ぶ(森林学習)
▶ゴール17(ターゲット17.16):すべての国の人々は今よりも魅力的に、幸せに暮らしていけるように、世界中の人々が協力し合って、みんなが心から実現したいと思えるゴールへ向かう。(全体)

海外の青少年達が天栄村で体験し、学び、生まれた「問い」について事前学習（動画等）

フューチャーセッション１回目。考えた答えを書いてみる。探究学習素材活用。

農業/自然体験等、天栄村にて現地学習

事後学習も手厚くフォロー！

事前学習

▶SDGsとは？SDGsについて感心を持たせ、SDGsの個々の目標、知識や世界観を学ぶ。世界情勢（特にASEAN、SAARC各国）について彼らが抱えている課題や、世界中で広がる格差、ひとつの国の中にもある格差について学ぶ

【施設で対応できること】

▶オンラインで授業へ参加し、これまでに天栄村に訪村した各国の青少年が残していったメッセージ(フューチャセッション課題側)を紹介。探究学習素材(ワークブック)の発送。フューチャーセッションの開催

受入人数	10名　～　50名
受入可能時期（休業日）	通年（年末年始をのぞく）
受入可能時間	9時　～　16時
体験時間	2時間　～　4時間

現地学習

▶「世界一のお米」天栄米の田んぼ学習（田植え・草取り・稲刈り）やその他農業・自然体験、震災学習等。時節、リクエストに合わせた体験を実施。農業を体験することで、持続可能な食糧の生産システムを学び、また、天栄村を訪村した海外の青少年と同じ体験を共有することで、どうして彼らがそのような問いをなげかけていったのか、彼らの背景の先にある世界が抱える格差の問題等を考える機会になる。SDGsの個々の目標の背景には複雑な要因があり、相互に影響しあっていることを理解する。雨天時の代替となる間伐材で作るお箸作りでは自然の有効活用を考えるきっかけとなる

対象	中学生・高校生・大学生
1人/1回当たり料金	４,000円（１人）(事前・事後学習含む)
備考(雨天対応等)	・探求学習素材（ワークブック）を事前に発送します。 ・荒天時は、農業体験を屋内ワークショップ(森林間伐材を活用したお箸作り他)に代替致します。

事後学習

▶自分たちが実際に体験して感じたことをまとめ、目標達成の為にどのように行動したら良いか、彼らのメッセージについて考える。フューチャーセッション（２回目）天栄村での体験を通し、１回目とどのように意識が変わったのか考察し、誰ひとり取り残さない、笑顔あふれる世界をめざす為に自分たちができることは何か考え、行動する力を育む

【施設で対応できること】

▶オンラインで授業へ参加し、生徒の意識の変化(フューチャーセッション２回目)を行う

▶問い合わせ

企業/施設名称：（一社）天栄村ふるさと夢学校
担当名：　村田 美章
TEL：0248-94-2232
営業時間　9:00～17:00
休館日　　土・日曜・祝日

SDGs探究プログラム名

㉚身近なことからはじめてみよう！～間伐材を活用したマイ箸づくり～

天栄村（中通り）　天栄村ふるさと夢学校

SDGs17の目標該当No.

3 4 7 12 13 14 15 17

【プログラムの内容】

▶木材の有効利用を通して失われた循環を取り戻す活動とともに、「お箸」という日常生活に不可欠な日本の文化の再発見します。「作る」体験を通じて、環境・社会・経済の複合的なコンテンツを楽しみながら、学ぶことで興味・関心を引き出し、SDGsの目標間の相互関連性への気づきにつなげていきます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール3: 日本の生活文化である箸使いを伝承することで、日々の食生活を見直す機会と健康について考える。
▶ゴール13（ターゲット13.3）：耐久性に優れ安価に大量生産できるプラスチック。大量生産・大量消費社会がもたらした環境問題について私たちが身近にできることについて学ぶ。
▶ゴール14　（ターゲット14.1）：何気なく捨てているプラスチックが海洋生物たちにもたらす問題について考え、実践していく心を育む。
▶ゴール15　（ターゲット15.1）：森と人間が共生するためにできること、水源の森を守り、次世代に引き継いでいく考えを学ぶ。

事前学習用の探究学習教材をご用意

森林間伐材を活用したお箸づくり
（オンラインでも可能）

ハギレでお箸袋とランチョンマットも作成

森林学習（オプション　2時間）

事前学習

▶天栄村のことを知る事前学習
天栄村ってどんなところ！？天栄村の概要(位置や人口、地域資源等)について
▶ごみを減らす理由、日本のごみの現状、４Ｒ について

【施設で対応できること】
▶オンラインで授業へ参加
▶探究学習素材(ワークブック)の発送

現地学習

▶森林間伐材を活用したお箸づくり（一人1膳）
ハギレを活用したお箸袋・ランチョンマット作り（一人１組）
▶制作したものは洗って、繰り返し使うことができ、環境問題・自然環境保全につながります
▶オプションで森林学習が可能です。自分で作った箸の原料となる間伐材を採取した森林に入ることで、より学習効果が高まります

事後学習

▶誰もが幸せになる未来を創るために、私たちができることは、身近なことからはじめ、それを続けていくことへの気付き。続けていくために必要なことを考えてみよう
▶何をしたら良いかわからない時は自分の好きなことX(かける)SDGsで考えてみよう

受入人数	10名　～　50名
受入可能時期（休業日）	通年（年末年始をのぞく）
受入可能時間	9時　～　16時
体験時間	通常　2時間 森林学習追加時　4時間

対象	小学生
1人/1回 当たり料金	４,000円（1人。事前・事後学習含む） 森林学習実施の場合は別途@1,000円。
備考 (雨天対応等)	・探求学習素材（ワークブック）を事前に発送します。 ・オンライン対応も可能。詳しくは、お問合せください。 森林学習（オプション）は、荒天時座学対応。

▶問い合わせ
企業/施設名称：（一社）天栄村ふるさと夢学校
担当名：　村田 美章
TEL：0248-94-2232
営業時間　9:00～17:00
休館日　　土・日曜・祝日

SDGs探究プログラム名

㉛天栄村で学ぼう！SDGs～農業体験・農村宿泊～

天栄村（中通り）　天栄村ふるさと夢学校

SDGs17の目標該当No.　2　8　17

【プログラムの内容】

▶食の礎である農業を体験することで、生産者の思いや苦労、食の大切さを学びます。村の三大ブランド「天栄米」・「天栄長ネギ」・「天栄ヤーコン」も地域住民が代々築き上げてきた自然環境があってこそです。また、良くも悪くも人と人の距離が近い天栄村では、訪れる人々との交流や繋がりを大切にしており、行政をはじめとする各種団体が協力して、教育旅行の受入を行っています。移住者からの講演や農家の方々との交流を通して、地域社会のあり方について考えてみましょう。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール2（ターゲット2.4）：持続可能な食料生産システム、強靭（レジリエント）な農業のあり方について考える。
▶ゴール8（ターゲット8.5）：人と人の日常の交流を通じて、人間らしい暮らし・仕事について考える。
▶ゴール17（ターゲット17.17）：官民の垣根を越えたパートナーシップにより、持続可能な社会の実現をめざす。

芳賀育実さん(元地域おこし協力隊)

農業体験

昼食（一例）

屋内物作り体験（荒天時）

事前学習

▶天栄村について調べてみよう
▶日本の農業の現状、課題を調べてみよう
▶自分達の住んでいる地域の農業の特徴を調べてみよう

【施設で対応できること】
▶天栄村への移住者や農村宿泊先とオンラインで事前交流
▶天栄村の農業に関する質問

現地学習

▶天栄村への移住者（元地域おこし協力隊）からの講演。
講演(例)「これまで、いま、これから」
▶農業体験を通して、生産者の思いや苦労、食の大切さを学ぶ。
▶天栄村の三大ブランド「天栄米」・「天栄長ネギ」・「天栄ヤーコン」。地域の人々が大切に守ってきた自然環境と農業の持続可能性について考える
▶農業体験や夕食の手伝い等を通して、農村の方々と触れ合い心温まる時間を過ごします

事後学習

▶事前学習で調べた自分達の住んでいる地域の農業と天栄村の農業の違いや似ている点について調べて発表しよう
▶都市部と地方の新しい関係づくり、地域との繋がりづくりについて、自分達の考えをまとめて発表しよう

【施設で対応できること】
▶オンラインで育苗状況配信
▶天栄村への移住者や農村宿泊先とオンラインで事後交流

受入人数	10名　～　150名
受入可能時期（休業日）	通年（年末年始を除く）
受入可能時間	スケジュールに合わせて調整致します。（要相談）
体験時間	スケジュールに合わせて調整致します。（要相談）

対象	中学生・高校生・大学生
1人/1回当たり料金	1泊2食　7,800円～、昼食　1食　800円～ 農業体験　1回　1,000円～
備考(雨天対応等)	宿泊はペンション・温泉旅館に貸切で分宿利用を予定。農家民泊をご希望の場合は要相談。

▶問い合わせ

企業/施設名称：　（一社）天栄村ふるさと夢学校
担当名：　村田 美章
TEL：0248-94-2232
営業時間　8:30～17:00
休館日　　土・日曜・祝日

SDGs探究プログラム名

㉜資源管理と栽培漁業から学ぶ水産資源の持続的利用

相馬市（浜通り）　福島県水産資源研究所

SDGs17の目標該当No.　9　14

【プログラムの内容】

▶福島県沿岸の水産資源の状況、漁業の状況と、実施している資源管理の状況を知るとともに、火力発電所の温排水を活用して放流用種苗生産を行っているホシガレイ、ヒラメ、アワビ、アユの生産現場を見学し、栽培漁業を知ることができます。

資源管理と栽培漁業の両輪から、水産資源の持続的利用を探ります。

（通常の種苗生産施設見学に加え、会議室で「水産資源の持続的利用」に関する講義を実施することも可能です）

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール９（ターゲット９.４）　：火力発電の温排水を利用することで、飼育水を暖める重油使用量を削減し、資源利用効率の向上を図る。

▶ゴール14（ターゲット14.２）：沿岸に生息する魚介類の保護と培養による生態系回復の取り組みを行い、水産資源の持続的な利用を図る。

施設の概要

ヒラメ放流種苗生産

ホシガレイ種苗生産研究

飼育魚の見学

事前学習

▶資源管理とはどのような取り組みか調べる
▶栽培漁業とはどのような取り組みか調べる
▶火力発電所は冷却のため海水を用いていることを調べる

【施設で対応できること】
▶福島県水産資源研究所のホームページの紹介
▶プログラムに関する資料の発送。事前学習の概要Web講義

現地学習

▶資源管理とは：福島県の沿岸漁業の実例を基にして、資源状況を把握し、漁獲量、サイズ、時期、漁具数などを制限することにより水産資源を維持する手法であることを知る
▶栽培漁業とは：放流種苗生産の施設内を見学しながら、稚魚を放流し、海で大きく育つのを待ち漁獲するもので、水産資源に人為的に積極的に関与できる手法であることを知る
▶施設に隣接する火力発電所の温排水を活用し、資源利用効率の向上を図っていることを知る

事後学習

▶魚の飼育や資源調査をしているのは何のためか、何を目標としているのかを振り返り、理解を深める
▶福島県以外の方は、自分の住まいの近くの海でどのような取り組みがなされているかを調べる

【施設で対応できること】
▶質問、疑問がある場合、メール等で対応します
▶プログラムに関する資料の発送

受入人数	10名　～　30名
受入可能時期（休業日）	通年（土曜日･日曜日）
受入可能時間	9時　～　16時
体験時間	施設見学　45分～60分 施設見学＋講義　２時間

対象	小学生･中学生･高校生
1人/1回当たり料金	見学･講義共に無料
備考(雨天対応等)	魚類防疫の為、長靴持参をお願い致します。(ある程度の準備あり。状況によりご相談ください。)

▶問い合わせ
企業/施設名称：福島県水産資源研究所
担当名：佐久間　徹
TEL：0244-32-0793
営業時間：8:30～17:15
休館日：土日･祝日

SDGs探究プログラム名

㉝一般研修（ガイダンス・施設見学・語り部講話・フィールドワーク・ワークショップ）

双葉町（浜通り）　東日本大震災・原子力災害伝承館

SDGs17の目標該当No.　9　12

【プログラムの内容】

▶震災・原発事故の教訓やそこで学んだ視点を自分の住む地域や社会全体の課題解決へつなげようと考えることで、学びを「他人事」から「自分事」へと深めます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール9（ターゲット5）：福島イノベーション・コースト構想の展示により、復興の進捗や新産業を学ぶ。
▶ゴール12（ターゲット8）：震災の記録と記憶を見聞きすることで、自身や地域の防災や住みたい町について見つめ直す。

東日本大震災・原子力災害伝承館

事故直後の記録を紹介

震災後の新しい取り組みの展示

双葉町・浪江町のフィールドワーク

事前学習

▶東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故について知る
▶現地でどんなことを知りたいか考える

【施設で対応できること】
▶各種情報サイトの紹介

現地学習

▶ガイダンス（相双地区における震災の概要を説明）
▶展示見学
▶フィールドワーク（本館周辺の双葉町・浪江町をバスで巡り、震災の爪痕とそこからの復興のありのままの姿を見る）
▶研修講話（震災語り部から生の声を聞く）
▶ワークショップ（学んだことを自身の生活にどのようにいかすかを考える　※専用の学習ノートを配布）

事後学習

▶学びを通じて、自分自身や家族、友達、次世代の子どもたちが暮らしていく社会をどのようなものにしたいか考える。（これから考えたいテーマを見つける）

受入人数	20名　～　240名
受入可能時期（休業日）	通年（火曜日）
受入可能時間	9:00～15:00
体験時間	60分～240分

対象学齢	小学生・中学生・高校生・大学生
1人/1回当たり料金	入館料：小中高団体@240円、大人団体@480円　※「一般研修」の施設見学以外は、選択する内容により料金が異なります。団体は20名以上
備考(雨天対応等)	減免・補助制度あり。フィールドワークは基本的にバス移動

▶問い合わせ

企業/施設名称：東日本大震災・原子力災害伝承館
TEL：0240-23-4402
営業時間：9:00～17:00
休館日：火曜日

SDGs探究プログラム名

㉞見えない不安を数値で確認～環境モニタリング体験～

富岡町（浜通り）　リプルンふくしま

SDGs17の目標該当No.　3　11　12

【プログラムの内容】

①展示見学：館内展示で特定廃棄物の埋立処分事業及び放射線の基礎等について学びます。
②空間線量率測定体験：放射線測定器を使って、モニタリングフィールド内の空間線量率を測定し、全国主要都市の数値と比較します。
③水質パックテスト体験：モニタリングフィールドの水辺で採水した水を使って、CODパックテスよる水質調査を行います。
④処分施設見学：特定廃棄物埋立処分における各種安全対策を確認します。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール3（ターゲット3.9,3.d）：モニタリング体験により、健康を害する危険因子の発見と管理について学ぶことが出来る。
▶ゴール11（ターゲット11.6）：放射性物質の環境への影響を知り、住み続けられるまちづくりについて考えるきっかけを作る。
▶ゴール12（ターゲット12.4）：環境上適正な廃棄物の管理（放射性物質の大気、水、土壌への放出）について学ぶことが出来る。

①展示見学（30分）

②空間線量率測定体験（20分）

③水質パックテスト体験（20分）

④処分施設見学（30分）

事前学習

▶福島第一原子力発電所事故後の影響（福島の環境）について調べる
▶放射性物質によって汚染された廃棄物について調べる

【施設で対応できること】
▶パンフレットやプログラムに関する資料の発送

現地学習

▶各展示物で廃棄物の種類や埋立処分の流れ、安全対策等について学ぶ
▶放射線測定器を使って、空間線量率を測定する。環境中の放射線量を確認し、福島の環境について理解する
▶川の水を採取し、パックテストによる水質調査を実施する。特定廃棄物の埋立が環境に影響を与えていないことを知る
▶特定廃棄物の埋立処分施設を間近で見学し、各種安全対策を確認する

事後学習

▶自分たちが暮らす地域と福島の環境の違いを確認する
▶自分たちが暮らす地域の廃棄物処理・処分、管理方法を調べる。

【施設で対応できること】
▶問い合わせ対応
▶パンフレットやプログラムに関する資料の発送

受入人数	1名　～　90名
受入可能時期（休業日）	通年（月曜日、祝日の場合は翌平日）
受入可能時間	9時　～　17時
体験時間	20分　～　100分

対象	小学生・中学生・高校生・大学生
1人/1回当たり料金	無料
備考(雨天対応等)	②・③・④の体験は事前予約制となっております。

▶問い合わせ
企業/施設名称：特定廃棄物埋立情報館リプルンふくしま
担当名：小又　智輝
TEL：0240-23-7781
営業時間：9:00～17:00
休館日：月曜日・年末年始
　当該月曜日が祝日の場合は翌平日

SDGs探究プログラム名

㉟さつまいも苗植え体験/さつまいも収穫体験

楢葉町（浜通り）　福島しろはとファーム

SDGs17の目標該当No.　2　15

【プログラムの内容】

▶東日本大震災と原子力災害により生じた耕作放棄地の活用を目指して設立した「福島しろはとファーム」でさつまいもの苗植えや収穫を体験します。農業を通して、震災と原子力災害の影響やそれからの復興について学ぶことができます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール２（ターゲット2.4）：ソーラーシェアリング（太陽光エネルギーを楢葉町の各施設へ送電）や畜産業と連携した肥料を活用し、持続可能な農業スタイルを確立。

▶ゴール15（ターゲット15.4）：原発事故や避難による耕作放棄地の再利用でさつまいもを栽培。土壌回復や緑豊かなふるさとの風景の再生。

さつまいもの苗植えと収穫を体験

楢葉町甘藷貯蔵施設

最新技術でさつまいもを熟成・保管

楢葉町をさつまいもの一大産地へ

事前学習

▶東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故が地域に与えた恵一興について調べる（住民の避難、農業分野、風評被害など）

現地学習

▶事業説明（SDGsへの取り組みを説明）

▶工場見学（日本最大級のさつまいもの楢葉町甘藷（かんしょ）貯蔵施設を見学。高品質なさつまいもを生産する最新技術を学ぶ

▶畑作業（実際に苗植えや収穫を体験する。地域や農業の復興にふれる）

事後学習

▶持続可能な農業のあり方について考える

【施設で対応できること】

▶さつまいものオーナー制度に参加することで、継続的に楢葉町の農業にかかわることができる。

受入人数	10名　～　80名
受入可能時期（休業日）	4月～11月（休業日：不定休）
受入可能時間	10:00～16:00
体験時間	60分～90分

対象学齢	小学生・中学生・高校生・大学生
1人/1回当たり料金	700円～（季節、人数により変動。お問い合わせください）
備考（雨天対応等）	雨天決行

▶問い合わせ

企業/施設名称：（株）福島しろはとファーム
担当者名：長井 翔太朗
メール：fukushimafarmer@shirohato.com
営業時間：10:00～16:00
休館日：不定休

SDGs探究プログラム名

㊱持続可能な林業へ　間伐材を活用した割り箸・鉛筆作り体験

いわき市（浜通り）　磐城高箸

SDGs17の目標該当No.　12　15

【プログラムの内容】

▶持続可能な林業への知見を深めるため、間伐材の原木から製品へ一貫製造している工場を訪問し、取り組みを学ぶことができます。
▶体験では、箸や鉛筆への焼印体験、鉛筆半製品から小刀での削り出しなどを行うことができます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール12（ターゲット12.8）：持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つ
▶ゴール15（ターゲット15.2）：森林の持続可能な経営の実施を促進する現場を学ぶ

磐城高箸
（旧田人第二小学校南大平分校）

工場見学

焼印体験

被災地復興の願いが込められた
間伐材で作られた「希望のかけ箸」

事前学習

▶日本の林業について調べてみよう
▶弊社の取組に対する取材をまとめたYouTube
　磐城高箸登場群　１分弱から25分強の全26動画を収納、
　授業時間に合わせてご活用ください
（https://youtube.com/playlist?list=PLpWwzXQZAkBJlrv2YC2es05_mqJaDofzx）
【施設で対応できること】
▶オンラインで授業へ参加し、自社の活動について紹介する
▶プログラムに関する資料の発送

現地学習

▶校舎内見学、工場見学、工程説明　３５分
▶体験学習
　焼印体験　１０分
　鉛筆削り出し体験　３０分

事後学習

▶間伐材がどれだけ有効活用されているか調べる
▶カーボンフットプリントを意識する

【施設で対応できること】
▶オンラインで授業へ参加し、児童・生徒の意識の変化を聞く
▶プログラムに関する資料の発送

受入人数	5名　～　30名
受入可能時期（休業日）	5月　～　10月（土・日曜日）
受入可能時間	9時　～　16時
体験時間	焼印体験　４５分 鉛筆削りだし体験　６５分

対象	小学校中学年以上
1人/1回当たり料金	焼印体験　１５０円 鉛筆削りだし体験　５００円
備考（雨天対応等）	校舎内は、自由に見学くことが可能です。所要時間、１５分。（無料）

▶問い合わせ
企業/施設名称：（株）磐城高箸／旧南大平分校
担当名：　高橋正行
TEL：0246-65-0848
営業時間：08:00-17:00
休館日：原則土日祝

SDGs探究プログラム名

㊲アクアマリンふくしま館内学習「きれいな海と生き物を守ろう」

いわき市（浜通り）　環境水族館アクアマリンふくしま

SDGs17の目標該当No.　12　14　15

【プログラムの内容】

▶東北最大級の水族館「アクアマリンふくしま」では、「海を通して人と地球の未来を考える」という基本理念に基づき、子ども達が「自然への扉」を開く体験学習の場として、さまざまな学習プログラムを提供しております。

▶本プログラム「きれいな海と生き物を守ろう」では、講義を通して海洋プラスチックごみの現状や、それらが生き物に与える影響について学び、きれいな海と生き物を守るためにできることについて考えます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール12：ごみが環境に与える影響を学び、３Ｒなどの環境に優しい取り組みについて考える。

▶ゴール14：海洋ごみなど、特に人間の活動によって引き起こされた問題について学ぶことができる。

▶ゴール15：陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、生物多様性損失の阻止を図る。

いわき市の海岸（2020年撮影）

プラスチックごみが絡まり
苦しんでいるキタオットセイ

３Ｒをもとに、自分ができる
ことを考える

館内見学を通して講義の中に登場した
生き物の生態を学ぶ

事前学習

▶身の回りのプラスチック製品を探してみよう

▶自分が１か月でどのくらいのプラスチックごみを出すか調べてみよう。また、自分の家庭でどのくらいのプラスチックごみが出るか調べてみよう

【施設で対応できること】

▶キッズハンドブック（小学校低学年向け）や環境ハンドブック（小学校高学年～中学生向け）をホームページで提供しています。見学の資料として活用できます

受入人数	1名～192名
受入可能時期（休業日）	通年（無休）
受入可能時間	9時～17時30分（冬季17時）
体験時間	講義　40分 見学時間　１時間30分

現地学習

▶プラスチックごみの現状について、自分の普段の生活と比較しながら話を聞く

▶海の中でプラスチックごみが絡まったり、プラスチックごみを食べてしまったりした生き物の紹介を聞く

▶プラスチックごみに対する各国や各企業の取り組みを聞き、未来のきれいな海を守るために自分には何ができるのかを考える

▶館内を回りながら講義に出てきた生き物を見ることができ、そういった生き物たちを守ろうという気持ちを高めることができるかもしれません

（2022年度から海洋ごみに関する展示を設置予定）

対象	小中学校、特別支援学校、高等学校等
1人/1回当たり料金	小～高校生入館料900円、講演費無料 ※学校教育活動による利用の場合、入館料減免制度があります（要事前申請）
備考（雨天対応等）	各種教育プログラムをご用意しております。詳しくは、館内学習担当までお問合せください。

事後学習

▶話に出てこなかった国や企業、自分の住んでいる地域の取り組みを調べてみよう

▶ 自分たちに今（将来）できることを考えて学校や個人で取り組んでみよう

▶海洋ごみの問題は他の環境問題と相互に絡み合っています。他の環境問題について調べてみよう

【施設で対応できること】

▶オンラインで授業へ参加し、児童・生徒の意識の変化を聞く

▶問い合わせ

企業/施設名称：公益財団法人ふくしま海洋科学館
アクアマリンふくしま
担当部署：館内学習担当
TEL：0246－73－2525
営業時間：通常期 9:00～17:30
冬　期 9:00～17:00
休館日：なし

SDGs探究プログラム名

㊳アクアマリンふくしま館内学習「命をいただこう（釣り・調理体験）」

いわき市（浜通り） 環境水族館アクアマリンふくしま

SDGs17の目標該当No. 14 15

【プログラムの内容】

▶東北最大級の水族館「アクアマリンふくしま」では、「海を通して人と地球の未来を考える」という基本理念に基づき、子ども達が「自然への扉」を開く体験学習の場として、さまざまな学習プログラムを提供しております。

▶本プログラム「命をいただこう」では、自分で魚を釣って調理して食べるという活動を通して、命の大切さや感謝の心を学べます。

【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット」】

▶ゴール14：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する

▶ゴール15：陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、生物多様性損失の阻止を図る

自分で魚を釣ります

釣った魚は自分で調理して食べます

大水槽「潮目の海」の三角トンネル
食物連鎖を目のあたりにすることも

蛇の目ビーチで海辺の生き物にタッチ

事前学習

▶普段自分達が食べている魚の産地を調べてみよう

▶日本近海で獲れる魚の種類や資源量の推移について調べてみよう

【施設で対応できること】

▶キッズハンドブック（小学校低学年向け）や環境ハンドブック（小学校高学年～中学生向け）をホームページで提供しています。見学の資料として活用できます

現地学習

▶はじめに魚を釣ります。釣りは魚との知恵比べです。

▶釣った魚は、自分で捌いて調理して食べていただきます。命の大切さや感謝の心を学ぶことができます

▶学習プログラムの後も、館内を巡ることで、楽しみながら生物と自然への知識と関心を高めることができます

事後学習

▶自分で魚を釣って調理して食べるという体験を通して、生徒はきっとその魚に興味が沸くことと思います。その生態や他の調理方法、資源量の推移など、生徒が関心を持った部分を自ら調べる時間を設けてみてはいかがでしょうか

【施設で対応できること】

▶魚の資源量などを紹介し水産資源の持続可能な利用を啓発する「Happy Oceans リーフレット」をホームページで提供しています

受入人数	１名～30名
受入可能時期（休業日）	6月 ～ 10月（無休）
受入可能時間	体験 10時 ～ 13時30分 見学 9時～17時30分(冬季17:00)
体験時間	体験 1時間 見学時間 １時間３０分

対象	小中学校、特別支援学校、高等学校等
1人/1回当たり料金	小～高校生入館料 @900円、魚代100円/匹 ※学校教育活動による利用の場合、入館料減免制度があります（要事前申請、魚代は対象外）
備考（雨天対応等）	・魚の餌や釣り方、器官や調理方法など学習時間に応じて設定できます。各種教育プログラムを用意しております。詳しくは、館内学習担当までお問合せください。

▶問い合わせ

企業/施設名称：公益財団法人ふくしま海洋科学館
アクアマリンふくしま
担当部署：館内学習担当
TEL：0246－73－2525
営業時間：通常期 9:00～17:30
冬 期 9:00～17:00
休館日：なし